

月刊 FALCOM MAGAZINE

Vol.27

読み切り漫画
少年期における家出的解決～優しい思い出
透春アヲ

jdk バンドボーカル・コテカナの
コテ放題♥

ファルコム jdk バンド ドラマー・オカジの
人生半キャラずらし

ファルコムニュース

Falcom FanArt Collection

ティオのファルコムラジオ めんどくさいです…でもがんばりますの舞台裏

新要素も追加されたバトルシステムをいち早く体験レポート!
英雄伝説 閃の軌跡 潜入レポート

学園改め「幼稚園」!?
みんな集まれ! ファルコム学園

ドロシーの天然ぶりにあの帝国軍人もタジタジ!?
英雄伝説 空の軌跡 リベール王国スナップショット

緊急企画!
新久保だいすけ×啄木鳥しんき「ファルコム愛を語る」スペシャル対談!!



FALCOM MAGAZINE

CONTENTS

緊急企画！

新久保だいすけ

（「みんな集まれ！ファルコム学園」）

×

（「英雄伝説 空の軌跡」）

啄木鳥しんき

「ファルコム愛を語る」スペシャル対談!!

春の嵐で桜もすっかり散ってしまった4月某日、関西某所に、ファルコムマガジンで「ファルコム学園」好評連載中の新久保だいすけ先生と、バンダイビジュアルホームページにて「空の軌跡」を絶賛連載中の啄木鳥しんき先生が集い、お互いの想いをぶつけあった！お互いをリスペクトする両先生の熱いトークをご堪能あれ！

まさかの超ニアミス！運命はすでに始まっていた！

――ファルコムマガジンVol・9で、啄木鳥さんと『レーヴェ物語』の楽時たらひさん、田沢大典さんとで鼎談をしまして、そのお話の中でちょくちょく新久保さんのことが出てきたことがありました。

啄木鳥：はい（笑）

――その頃から、いつかはおふたりでの対談を、と考えていたのですが、遂にこうして実現いたしました！

新久保：実現するものなんですねぇ。

啄木鳥：新久保さんと対談するのは是非是非！　という感じなんですけど、それをファルコムマガジンに載せるのが嫌で逃げ回っていたのに（笑）

新久保：そんなにですか！

啄木鳥：ただ普通に楽しくおしゃべりをするだけなら大歓迎なんですけどねぇ。そもそも最初は、新久保さんへのインタビューに同席して、相槌を打つという役目だったはずで（笑）

新久保：僕のインタビューでは読者的に需要が無さすぎではないかと（笑）。でもしんきさんは僕にとって憧れの漫画家さんですから、こうしてお話できて嬉しいです。

啄木鳥：こちらこそ！　こうしてお話してる感じは、描かれる漫画と違って落ち着いた方ですね。漫画はあんなにはっちゃけてるのに

（笑）。いただくメールがまた丁寧で。

新久保：ギャグ漫画家は、こうしたら笑われるという分析ができているものなので、案外普通の人が多いんですよ。あ、ギャグ系じゃない漫画家さんがおかしい人ということではないですよ（笑）

――おふたりはこうして会うのは初めてですか？

新久保：僕が初めて連れて行ってもらった同人誌のイベントで、しんきさんの同人誌を買ったことがあるんです。

啄木鳥：お恥ずかしい。

新久保：それを拝見して、すっかりファンになっちゃいました。今でもずっと持ってますよ。で、その後もお邪魔させていただいて本を買っては挨拶をしてみたりしました。

啄木鳥：ほんのりとは覚えているんですよね。

新久保：プロになる前から、この人はすごい！　って思ってました。背景まで高いクオリティで描ける人ってそうそういないですし、すごく勉強になってました。

啄木鳥：その同人誌、もう捨ててください（笑）

新久保：当時から『イース』とか『ソーサリアン』とかファルコムゲームの同人誌でしたね。ファルコムのゲームはその頃のゲーマーの嗜みといいますか、やってるのが常識という位置づけでした。

啄木鳥：うんうん。

新久保：そうして同人誌をチェックしていたんですが、同人を辞められてプロの漫画家に転向されたんですよね。まさになるべくしてなった感じでした。

啄木鳥：でも、新久保さんがプロになったのもその後すぐじゃなかったですか？

新久保：もう少し後です。全然プロになる気も、なれるとも思ってなくて、誘われるままに漫画を描いて、ああいい思い出ができたなって（笑）

啄木鳥：私も同じ頃から同じように新久保さんの同人誌を買わせてもらっていて、単行本も全力で追っかけています！　長い間ずっとファンなんです。

――お互いに面識はなくとも、作品を通してお互いを知っていたわけですね。

新久保：そんな時に「啄木鳥さんにフォトショップの機能を教えてあげてくれない？」って編集さんから連絡があって。

啄木鳥：その節はお世話になりました。

新久保：いえいえ。で、メールの交換をさせていただくようになったんですけど、そこに書かれた住所を見て……。

啄木鳥：「ん？」って（笑）

新久保：住所が、明らかにウチと近いんですよ。自転車で15分くらい（笑）

啄木鳥：今日も自転車で来ました！

今回の対談の趣旨 それはすでに決まっていた

啄木鳥：新久保さんが最初にやったファルコムさんのゲームは？

新久保：『デーモンズリング』です。当時はパソコンを持っていない子供でしたけど。あ、今も17歳です



『空の軌跡』第１巻イラスト

単行本第１巻カバーのカラーイラストを「背景と人物をレイヤーで分けて欲しい」という編集側の要望に、戸惑っていた啄木鳥先生に、新久保さんを紹介、その方法を伝授していただいた。

けどね（笑）！ 近所のお兄ちゃんのウチでやらせてもらったんです。画面を見ているだけでワクワクしてました。で、自分で最初に買ったのはMSX版の『ロマンシア』。

啄木鳥：私も最初は『ロマンシア』です。最初から難度の高いものをねぇ（笑）。

新久保：パソコンショップで『ロマンシア』のデモを見て、あの都築和彦さんの絵とオープニングにすっかりヤラれました。

啄木鳥：私も、都築さんの絵には魅せられました。友達の持ってたログインの『ロマンシア』広告を切ってもらったりして。それで初めて日本ファルコムという会社を意識しました。あと、『ザナドゥ』の漫画はバラバラになるくらい読みました。

新久保：当時、都築さんの絵に影響された人はすごく多いですよね。それにしても『ロマンシア』は難しかった…。いろいろ教えてもらいながらなんとかクリアしました。

啄木鳥：すごい！ 私はセリナ姫を出した時点で終了でした。ファミコン版もやったんですけどね。

新久保：その頃に食玩出ましたよね、『ロマンシア』の。

啄木鳥：あったあった（笑）。ファン王子は持ってましたよ。

新久保：！ 人間が出たんですね！ 僕はセリナ姫が欲しくて、あちこち探しまわってようやく見つけて10個くらい買ったんですけど、モンスターしか出なかった（笑）。チャダとかデンデンとか。

啄木鳥：子供なのに大人買い（笑）

新久保：その思い出話をツイッターで呟いたら、ファルコムさんが「これ？」って写メを上げてきて（笑）

啄木鳥：それそれって！

新久保：今でも欲しい…。どなたか親切な方、ファルコムマガジン編集部までお送り下さい！

啄木鳥：今日の対談の隠れテーマとして「セリナ姫はどちらの嫁か」というのがありまして。

——嫁…ですか？

新久保：お互い、セリナ姫には熱い想いを持っているわけです。啄木鳥さんとのメールでのやり取りの中で、セリナ姫を奪い合うわけですよ。で、今回の対談を一度は断ったという話になった時に、じゃあそれを辞退するということは、セリナ姫は僕の嫁ということでいいんですね？ と挑発したんです。

啄木鳥：それを言われたら、引くわけにはいかないということで、こうして対談することになったという（笑）

——セリナ姫様様ですね。で、どうやって決着をつけるんですか？

新久保：いや、そこまでは考えてなかったです（笑）





『ロマンシア』のフィギュア

カバヤ食品から発売されていた『ロマンシア キャンデー』。新久保先生を熱狂させ、そして敗れ去ったこの商品、人間キャラは全体の1/3以上。先生の運が悪いのか、それとも…!?

緊急企画！「ファルコム愛を語る」スペシャル対談!!

新久保だいすけ×啄木鳥しんき

欲しいものは欲しい！ 一応言っておきましょう

——啄木鳥さんは『ソーサリアン』にも思い入れがありますよね。

啄木鳥：そりゃもう！ ファルコムマガジンのイラストエッセイではまだ『ソーサリアン』をやれてないんですよ。『戦国ソーサリアン』は描きましたけど。

新久保：あれが一冊にまとまるまで続けてくださいね。

啄木鳥：頑張ります！ ここのところバタバタで描けてませんけど…うう…。

新久保：30周年記念本「Falcom Chronicle」（アスキー・メディアワークス刊）でも『ソーサリアン』を描かれてましたね。

啄木鳥：他に誰も『ソーサリアン』を描く人がいないんじゃないかと思って、ここは私の出番じゃないかと。でも、なんか場違いでしたねー。私の場合半分はただのファンだし（笑）

新久保：最強のファン代表です。

啄木鳥：あれで久しぶりに『ソーサリアン』やりました。案外覚えてるもんですね。

新久保：僕も『ソーサリアン』好きでした。X1版『ソーサリアン』のエンディングにだけ、都築さんの一枚絵があって、アレのためにX1購入を考えました！ 実現しませんでしたけど。メガドライブ版も面白かったですけどね。もう血涙流しながら（笑）

啄木鳥：「サンゴ」ですか（笑）？

新久保：そう（笑）。メガドラ版『ソーサリアン』といえば「サンゴ」ですよ！ 知らない方に説明するのも野暮なのでググってみてください（笑）

啄木鳥：『ソーサリアン』、もっと手軽にできると嬉しいんだけどなぁ。PSPとかで出してくれないかなぁ…。

——そういったファルコムさんへの要望はありますか？

啄木鳥：仕事の関係で、しばらくMacを使ってる時期があって、その間のファルコムゲームが抜けてるところがあるんですね。ちょうどWindows初期の頃のあたり。

新久保：ああ、僕も同じような時期のがちょっと…

啄木鳥：で、『イースエターナル』を発売の時買っておいて、随分後にWindows機を買ってやろうとしたら、これが動かなくて。

新久保：3月に出たWindows8対応版なら動きますよね。

啄木鳥：……いいなぁ。

新久保：……いいなぁ。

——そんな物欲しそうな目で見られても（苦笑）。

新久保：あとは…ウィザードとセリナ姫のねんどろいどを！

啄木鳥：あ、リリアもお願いします！ それとフィーナは出てるのに、レアがいないじゃないですか。すごく寂しそうなんです。

新久保：わかります！

啄木鳥：フィーナは2つ持ってるので、紙粘土で前髪を作ってフィーナにつけたらレアっぽくなるかと思ってやってみたんですけど、やっぱり違いました（笑）

新久保：やったんですか！

啄木鳥：飛行艇を作った残りの紙粘土でやってみました。（コミッ



新久保さん作業環境

新久保さんの漫画制作環境は現在、ネームからペン入れ、仕上げに至るまですべてデジタル化されている。ちなみにアイディアは散歩しながら思案にふけっているのだという。



『みんな集まれ！ファルコム学園』
月刊ファルコムマガジンにて好評連載中の四コマ漫画。単行本第1巻は2012年7月発売。オビの推薦文とイラストを啄木鳥先生が担当。新久保先生の絵に寄せすぎたため、わかりづらくなったような…

ク『空の軌跡』第4巻あとがき参照）でも顔がやっぱり違うんですよねー。

新久保：作画参考用のモデルってよく作られるんですか？

啄木鳥：あの頃は、紙粘土でのモデル作りがマイブームだったんです。あ、でも3Dソフトでのモデルもまだ諦めてません！　いまはグランセル城に挑戦してます。

新久保：えーっ？　それはすごいですね。

啄木鳥：いえ、ただの棒状態ですけどね（笑）。時々そういうブームがやってくることがあって、第4巻のあとがき前にあるエステルのイラスト、あれはそのときにマイブームだった、飛び出して見える立体視で描いたものです。

新久保：うーん、すごいですね。これ、どうやって描くんですか？

啄木鳥：パソコンのモニターをジーっと見て、少しづつずらしながら描いてます。やってみたらできちゃったんですよね。でも、みんなちゃんと見てくれないという（笑）

新久保だいすけの漫画の作り方

啄木鳥：新久保さんの漫画って、ゲームをプレイしてない人でも十分に楽しめるじゃないですか。どうやってネタ拾ってるのかが不思議でならないです。

新久保：毎回、描きたいネタというのは突き詰めると1、2個だけです。そこに至るまでに、あちこち寄り道して膨らませながら本ネタに到達する感じの作り方をしてます。

啄木鳥：ゲームをプレイしている人はさらに楽しめますよね。

新久保：一応、ファルコム作品はほぼひと通りクリアしました。まだやってないネタも結構ありますよ。そもそも学園なのに、学校行事を全然やってないのも問題があります（笑）

啄木鳥：まだ女子校も作ってないですしね（笑）

新久保：早くやらないと、いい加減怒られそうですけど、スイマセン！　それにしてもファルコム学園はいつも好き勝手に描かせてもらってるんですけど、なんで怒られないんでしょう？　ちょっとやり過ぎたかな…ってネタでも「OKです」って返事が来て、いやアレはOKちゃうやろ！　って突っ込みたくなるくらい寛大で…

啄木鳥：お世辞抜きで面白いからじゃないですか？　ホント「負けたっ！」ってよく思いますもん。

新久保：ありがたい限りです。

啄木鳥：私、ダルク先生が大好きなんですよ。振り回されっぷりがいいです。

新久保：ダルク・ファクトは『イースvs空の軌跡』にも出てきたじゃないですか。支援キャラで。なんであんたが支援してるんだ！　ってことですよね（笑）。幸いなことに『vs』はうまい設定があってそこをアリにしてるのが助かります。

啄木鳥：ちょっと性格がディフォルメされてても、全然嫌な感じがしないんですよね。それが新久保さんの作風といいますか。

新久保：アドルなんかはまるで別

新久保だいすけ×啄木鳥しんき

人になっちゃってるので、誤解を招きかねないですよ。

啄木鳥：アドル自体、「現地妻持ち」みたいな言われ方をするところもありますから、まったくないキャラクターではないですし、それを誇張してるから漫画として面白いんですね。

新久保：元のキャラクターを知ってる人の方が、ある意味納得してくれるかもしれません。

啄木鳥：コテカナさんは、あまりゲームに通じておられないようですし、ひょっとしてアドルを勘違いしている可能性がありますね（笑）

新久保：それはありうる！　一回は『イース』をプレイしていただくことを強くオススメします！

啄木鳥：そういえば新久保さん、「ファルコムラジオ」でもラブコールうけてますね。スタジオに来て欲しいって（笑）

新久保：基本出たがりなので嬉しいですけど、あがり症ですから人前ではなにも喋れないですよ？…出ろと言われれば、出ますけど（笑）

――（笑）これ書いちゃったら、オファー来ちゃいますよ？

新久保：……関西方面で収録があれば、です！

啄木鳥：私も以前、ファルコムさんにお邪魔したとき、出演をそれとなく打診されたことが。「恥ずかしかったらみっしぃの着ぐるみ着てていいので」って（笑）

新久保：しんきさんが一緒だったら流暢に喋れそうな気がします。一緒に出ましょうよ！

啄木鳥：無理無理無理！　漫画家はしゃべるお仕事ではないですからっ！

啄木鳥しんきの漫画の作り方

新久保：しんきさんのコミカライズのすごいところって、まずはゲームのエピソードを惜しげもなくバッサリ切っちゃって、それをオリジナルの話として再構成してしっかり取り返してくるところですね。

啄木鳥：私自身は「空の軌跡」はすごく原作寄りに、シナリオに忠実にやってるつもりなんですけどね。ちょこちょこ切り貼りはしていますけど、小手先のテクニックといいますか。

新久保：それが漫画のテクニックですよね。

啄木鳥：ものすごく悩むことも多いです。ページ数が限られているし、ゲームと漫画の媒体による表現方法の違いもあって。例えば、紅蓮の塔以降の展開は、原作のままでやるとなし崩し的にアガットさんを助けて看病してって流れになって、ティータがおじいさんのことで悲しむヒマがなくなっちゃうと思ったんですよ。そうすると越えなきゃならない壁が乗り越えられなくなる…とか考えだすと、すごく怖いんですけど変えずにおれなくなっちゃう。出来る限り原











『英雄伝説 空の軌跡』
現在はバンダイビジュアルホームページ（http://www.bandaivisual.co.jp/book/eiyudensetsu/）で連載中。単行本第５巻まで好評発売中！

作に沿いながら、どこまでの変更が許されるのか…本当に悩みます。

新久保：『空の軌跡FC』を忠実にコミカライズしようとしたら10巻ではきかないくらいの長さになるところを、うまーくアレンジすることで過不足なくまとめるって並大抵ではありませんよ。

啄木鳥：最初は1巻だけって話でしたけどね（笑）

新久保：ええ!?

啄木鳥：おかげさまで少しずつ巻数が伸ばせてきたんですけど、いよいよラストに差し掛かってきました……うーん、うまくまとまるかなぁ…。

新久保：まだ結構なイベントが目白押しですよね。

啄木鳥：どこを描いて、どこを省略するか…もうパズルのような感じになっちゃってますよ。

新久保：楽しみにしてます。そういえば、単行本のカバー折り返しにもキャラクターをいっぱい入ってますけど、あれを見るのが楽しみなんです。

啄木鳥：第1巻のときに、カバー折り返しに著者近影を入れようか？って話になりかけて、それを全力で阻止するために早めにラフをあげて食い止めました（笑）

——第1巻のラフ、ものすごく早かったですもんね。

啄木鳥：なかなか本編で描けないキャラクターがいっぱいですから、出来るだけ描きたいんですよね。

新久保：好きなキャラクターはいます？描きやすいとか描きにくいとか。

啄木鳥：目下の敵はオリビエ（笑）。FCだと、あの人いなくてもたぶんメインストーリーは問題なく進むじゃないですか。でも削るわけにはいかないんです。出てきたら目立ちすぎるし、喋ってることも本心じゃないかもしれない？というあたりが難しいです。好きなキャラだし出てくると華やかになって楽しいんですけどね。

新久保：『閃の軌跡』ではまた印象が変わるかもですね。

啄木鳥：ですねー。あ、あとは作画的にはアガットさんとティータが凶悪！それと黒装束の特務兵も大変！あの格好で戦うってなに!?

新久保：第3巻でのアガットと特務兵の戦闘シーン、大変だったでしょうね。

啄木鳥：あれはゲームのイベントのキャラチップを見ながら、棒人間で描き写して再現したつもりなんですけど、わかってくれたかなぁ？

新久保：あの曲が流れるシーンですよね？

啄木鳥：そう！あの曲は、あそこで初めて流れると思うんですけど、アガットさんの曲だと思ってました。

新久保：実はレーヴェのテーマ（銀の意志）だったんですよね（笑）

啄木鳥：私としてはいまでもアガットさんのテーマ…（笑）

新久保：あとこのふたりの戦闘、剣が面倒くさそう！

啄木鳥：いま連載で描いている闘技場の戦いでは、それもあって木刀にしました。刃物での戦いで怪我するのも武闘会では変でしょうし。アガットさんの剣とか殺傷能力高すぎですからね。

新久保：細かいところまで考え抜いてるんですね。すごく勉強になります。悔しいので普段はあまり人の漫画を褒めないんですけど、素直に参りました！

啄木鳥：ありがとうございます。

ふたりが語る ちょっと先のこと

——新久保さんは、閃の軌跡マガジンでも四コマを描くことになりましたね。

新久保：はい、閃の軌跡マガジン用の描き下ろしです。

啄木鳥：おお！

新久保：しかもカラーですよ。労力的にはモノクロとあまり変わらなかったりするので、せっかくですし…

啄木鳥：それは楽しみです！すぐにショップに確保に行かないと！

新久保：これで単行本第2巻の発売が少しでも早まれば…！

啄木鳥：『閃の軌跡』にもトヴァルさんがでてきたら、ファルコム学園に出してもらえません？

新久保：いいんですか？今日聞いてみようと思っていたんです。ひどいことになっちゃいますけどいいですかって（笑）

啄木鳥：（笑）ぜひお願いします。他の方がトヴァルさんを描くとどんな感じになるのか見たいです！

——啄木鳥さんは、まず「空の軌跡」FCの完結を目指すところですね。

啄木鳥：「空の軌跡」は絶対にしっかり終わらせたいんです。ファルコムさんにだけは軽蔑されたくないから。

新久保：育ててもらったというか、いい時代を送らせてもらった恩返しといいますか。

啄木鳥：私が描くもので喜んでもらえるなら、こんなに嬉しいことはないです。

——その後は？

啄木鳥：SC…やりたいです。SCが終わっても、エステルとヨシュアは『零の軌跡』『碧の軌跡』にも出てますので、エステル目線の『零』なんかもできるんじゃないかと…。

新久保：おお、それは見たい！

啄木鳥：何年先の話でしょうかね（笑）

新久保：じゃ、近いところで『閃の軌跡』発売の抽選会に一緒に行きましょうか？

啄木鳥：いいですねぇ。

新久保：もちろんギャラクシー・ヴァン・ジョーのTシャツを着ていくんですよ？

啄木鳥：……それは考えさせてください（笑）

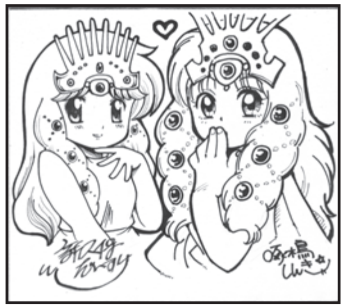
新久保だいすけ
Arakubo Daisuke

漫画家。大阪府出身。アンソロジーコミックを中心に活躍しながら、オリジナルコミックも多数手がける。ゲーム、アニメ、特撮ジャンルを得意とする。「東映ロボットガールズ研究所」4コマの単行本化をみんなで嘆願しよう！ http://www.toei-anim.co.jp/sp/robotgirls/index.html

啄木鳥しんき
Kitsutsuki Shinki

漫画家。和歌山県出身。ゲームメーカーでキャラデザ、グラフィックなどを担当の後、漫画家としてデビュー。現在、バンダイビジュアルホームページにて「英雄伝説 空の軌跡」を好評連載中。http://www.bandaivisual.co.jp/book/eiyudensetsu/

今回の対談を記念して、両先生に寄せ描きサインをいただきました。応募方法はP73をご覧ください！







THE LEGEND OF HEROES
閃の軌跡 リベール通信緊急号外 潜入レポート

リベール通信
帝国支部
アッシュ洋平
リベール通信帝国支部の新米記者。先輩であるナイアル・バーンズにあこがれ、日々スクープを追う。

新たな要素が組み込まれた『閃の軌跡』のバトルを体験！
さらに、キャラクター＆エリアに関する新情報もキャッチアップ!!



■『英雄伝説　閃の軌跡』
メーカー：日本ファルコム
ジャンル：ストーリー RPG
機種：PlayStation 3,PlayStation Vita
発売日：2013年発売予定
価格：価格未定

『閃の軌跡』のバトルが見えて来た！ 新戦闘システムに接近！

絆が力に！「戦術リンク」で戦いはより爽快に！

本作の戦闘は、従来のATバトルを継承しつつ、「戦術リンク」という新機能を搭載！ 仲間同士とのリンクにより、スピード感と爽快感に溢れた戦いが楽しめる。いち早くその要素をお届け!!



←エプスタイン財団とラインフォルト社が技術提携の一環で共同開発した次世代の戦術オーブメント。「マスタークオーツ機能」を有するほか、仲間同士で共鳴することで連携攻撃を可能とする「戦術リンク機能」を搭載。

新型戦術オーブメント《ARCUS》アークス



アタック＆サポートの7人パーティ!?
↑アタックメンバー4人、サポート3人で行動するのか？



新たなコマンドも追加！
↑メインメニュー画面。コマンドに、前作にはなかったものが！

新たなATバトルを紙面で体験！「戦術リンク」の謎に迫る



「戦術リンク」とは、リンクした仲間と協力して攻撃などを繰り出すことができる新たな戦闘システム。リンクで結びついた仲間（画面では足下に光の帯で表示）とは、「戦闘能力の強化」や「パートナー同士でかばい合う」など戦いが有利になるさまざまなアビリティが発生する！　その一連の流れを紙面で体験してみよう。

仲間との絆の力が強さとなる！



①コマンドを選択
↑コマンドの選択画面。基本コマンドは、これまでと同じようだ。ただし、画面右に「T－LINK」や「交代」といった新たなコマンドも。

②リンクした仲間が追撃！
↓ラウラが敵に攻撃を加えると、「斬」の文字とともに相手が体勢を崩す！ するとリンクアタックのコマンドが表示されて……。



③リンクした仲間が追撃！
↓「追撃」を選ぶと、リンクしているエリオットがすかさず敵に攻撃を行う！



CHECK! 移動はフリーエリア制に！

これまで同様、本作でも戦闘中に「移動」が可能。ただし、今回はマス目での移動ではなく、エリア内は自由に移動できるように！



↑行動範囲内は円で表示。この中なら自由に移動可能。



④敵を撃退！
↑２人の連携攻撃で敵が消滅。なお、一連の行動がスピーディに展開した。これまで以上に戦闘がサクサクと進みそうだ。

CHECK! 攻撃によって敵が体勢を崩すときに出る文字が異なる!?

アリサで攻撃をしてみたところ、敵が体勢を崩したときの文字が「射」に変化した。もしかしたら、攻撃属性なども存在するのか？



↑ラウラのときは「斬」、アリサは「射」これが意味するものとは？

9人目のⅦ組メンバーが判明!





「風と女神の導きを――
気をつけて行くといい。」



ガイウス・ウォーゼル

17歳／使用武器「十字槍」

帝国の北東方面にある、異郷の地「ノルド高原」の出身。褐色の肌&長身の偉丈夫で、身の丈余りの十字槍を自在に振るう力の持ち主。実家は羊の放牧と馬の育成を営んでおり、幼少から狼相手に槍の腕を磨いてきた。とある帝国軍将校の推薦で士官学院に入学したようだが……。

今月のこの1枚 ガイウスの妹をスクープ!

ガイウスは４人兄弟で、弟と２人の妹には「あんちゃん」と慕われている。
そのうちの１人の妹をショットを公開！



↑大きな目と黒髪が印象的なリリ。馬の世話をしているようだ。

ぶらり帝国旅 ノルド高原

帝国の北東にあるアイゼンガルド連峰を越えた先に広がる高原地帯。古くから遊牧民が暮らしており、彼らは羊の放牧や馬の育成などで生計を立てている。なお、この地は帝国と共和国が共に領有権を主張している土地でもある。



巨石群

↑ストーンヘンジを思わせるオブジェ。高原独自の宗教に関係する建造物かもしれない。



湖畔

↑ノルド高原にある湖。岸辺には小屋が建てられている。釣りをするには絶好のスポット!?



巨人像

↑ノルド高原を見守るように立つ像。これは遊牧民たちが作った彫像か？　それとも古代文明の遺産なのか？

さらに2人の帝国関係者も!!





「帝国貴族は優雅かつ果敢であるべし――そうではないか?」

ルーファス・アルバレア

27歳／使用武器「騎士剣」

ユーシスの兄で、四大名門・アルバレア公爵家の跡継ぎ。貴族派きっての貴公子で、“とある皇子”と社交界の話題を二分している。非常に良く出来た人物だが、「身分制度は帝国にとって必要だ」という貴族派らしい信念を語ることも。帝国各地の領邦軍への影響力も高く、革新派を抑えるべく動いているらしい。

「この場は我々、鉄道憲兵隊が預かります。」

クレア憲兵大尉

24歳／使用武器「導力銃」

帝国正規軍・鉄道憲兵隊に所属する有能な女性将校で、ギリアス・オズボーン宰相直属の「アイアンブリード（鉄血の子供たち）」の一人。清楚可憐な容貌だが、導力演算器並みの指揮・処理能力と揺るぎない意志をもって作戦行動を完璧に遂行する事から「氷の乙女（アイスメイデン）」と呼ばれ、貴族派から警戒されている。



オーロックス砦

(Aurochs Fort)

貴族の街・バリアハート東部の峡谷地帯にある巨大な中世の城塞。アルバレア公爵家が管理しており、貨物路線が引きこまれ、大規模な改修が加えられた上で要塞化している。革新派との対決に備えて、領邦軍が軍備を増強しているようだが……。



鉄道憲兵隊

(TMP／Train Military Police)

《鉄血宰相》ギリアス・オズボーンの肝煎りで設立された正規軍の精鋭部隊。帝国全土に張り巡らされた鉄道網を駆使し、治安維持を行う。貴族勢力の領邦軍と対立することが多く、現在はかつて無いほど緊張が高まっている。

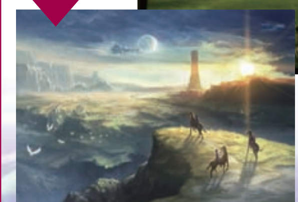
CHECK! 画面に日付と曜日の表示が！

画面写真の右手を見てみると、マップとキャラの表示の間に、日付と曜日の欄を見ることができる。クエストなどに曜日などが関わってくる可能性も高い？



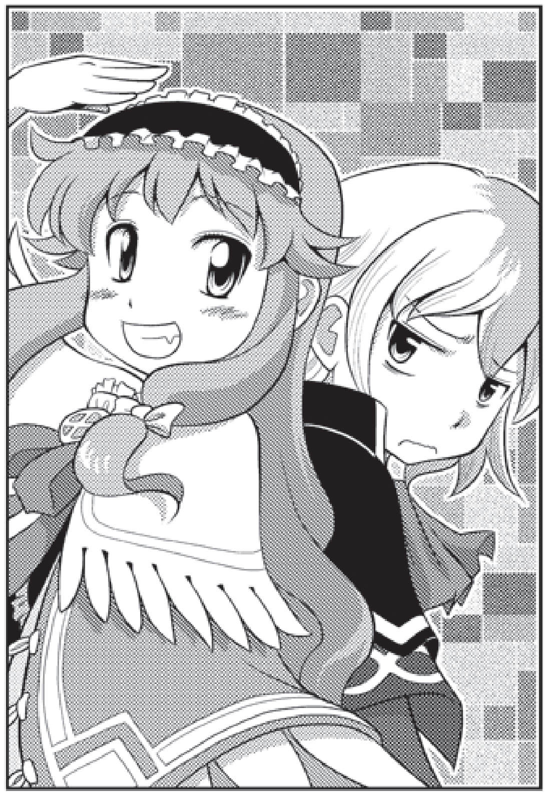
↑移動距離などで、日付が変わる可能性も？　ちなみに写真の場所はガイウスの故郷・ノルドの遊牧集落だ。





巨大な要塞らしき建物も！

←↑画面の奥には、下のイメージボードにもある巨大な建造物が見える。リベール王国にあった《四輪の塔》のような古代の建物かも



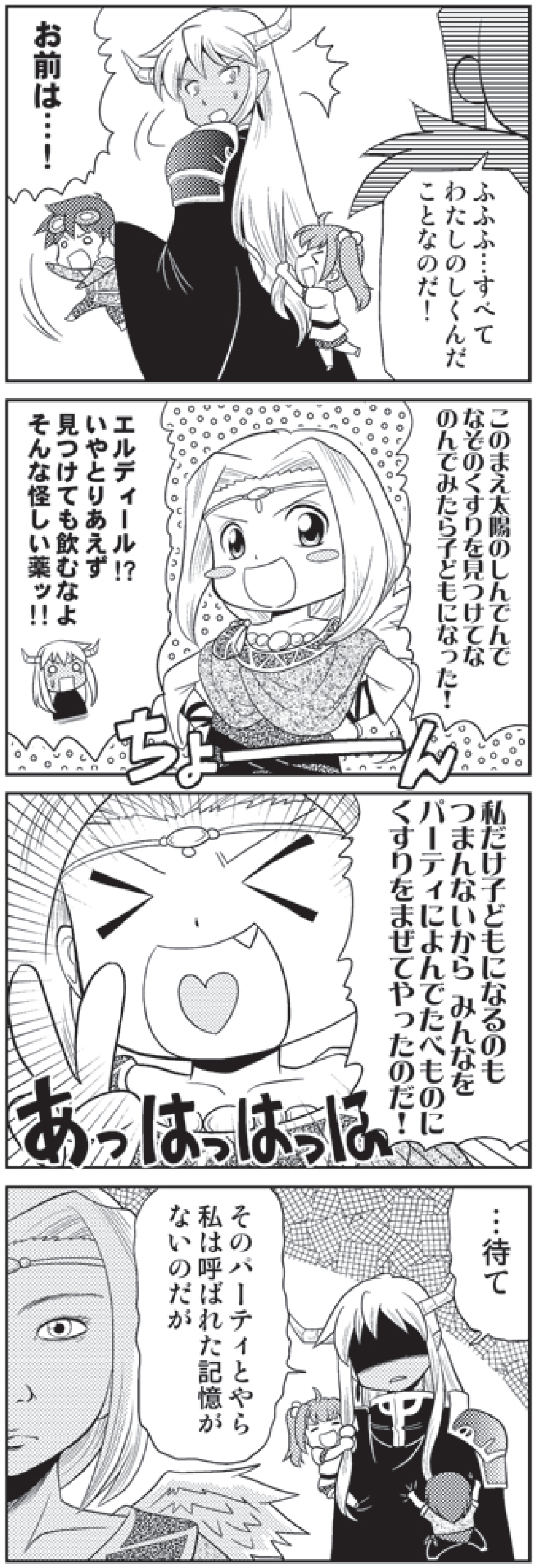
みんな集まれ！ファルコム学園

新久保だいすけ

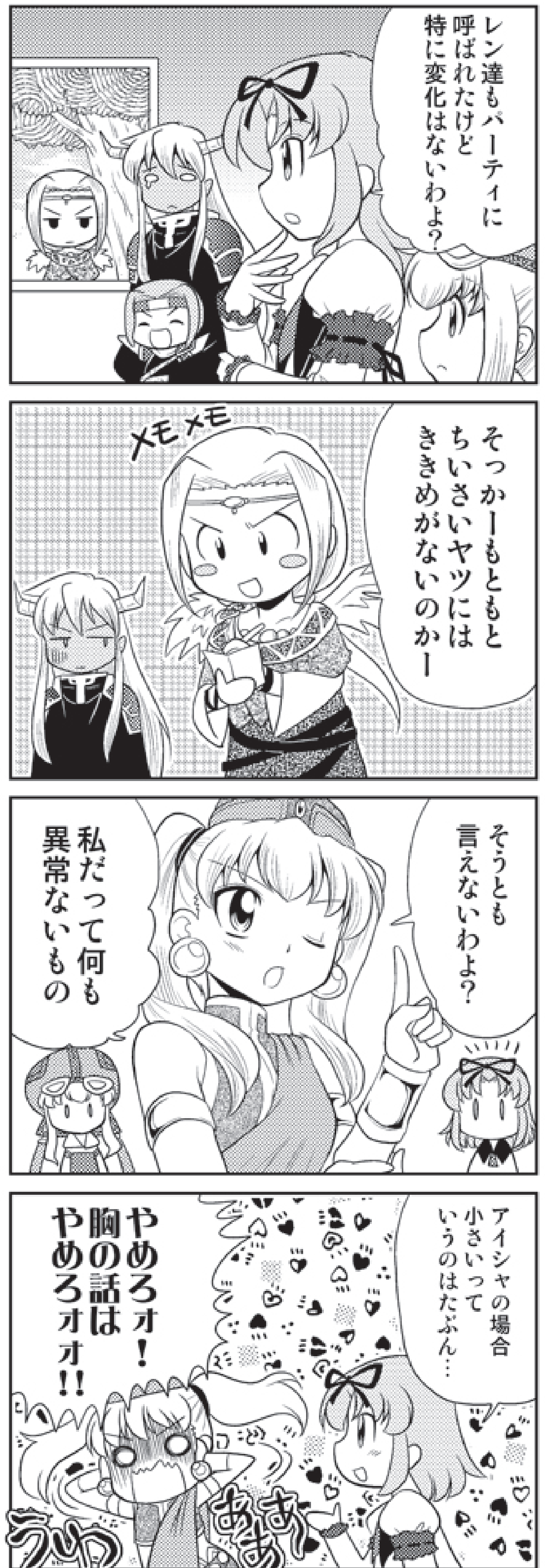
路線変更



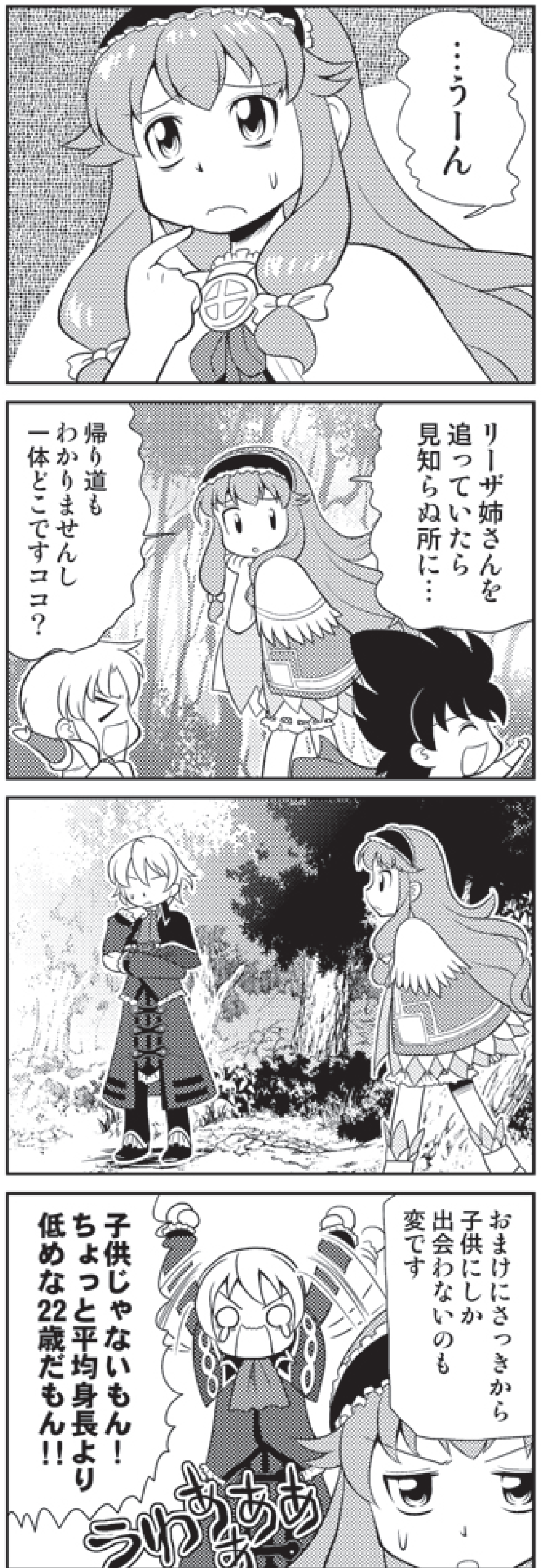
ぼっち先生



小さい人



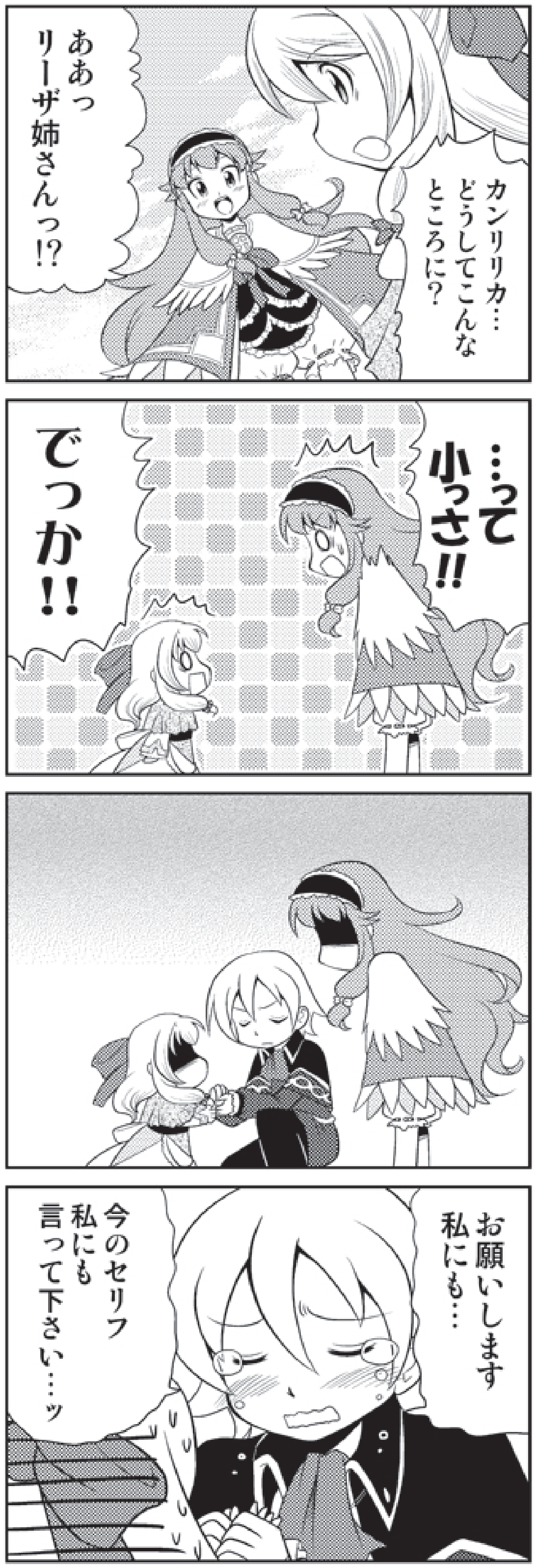
22歳



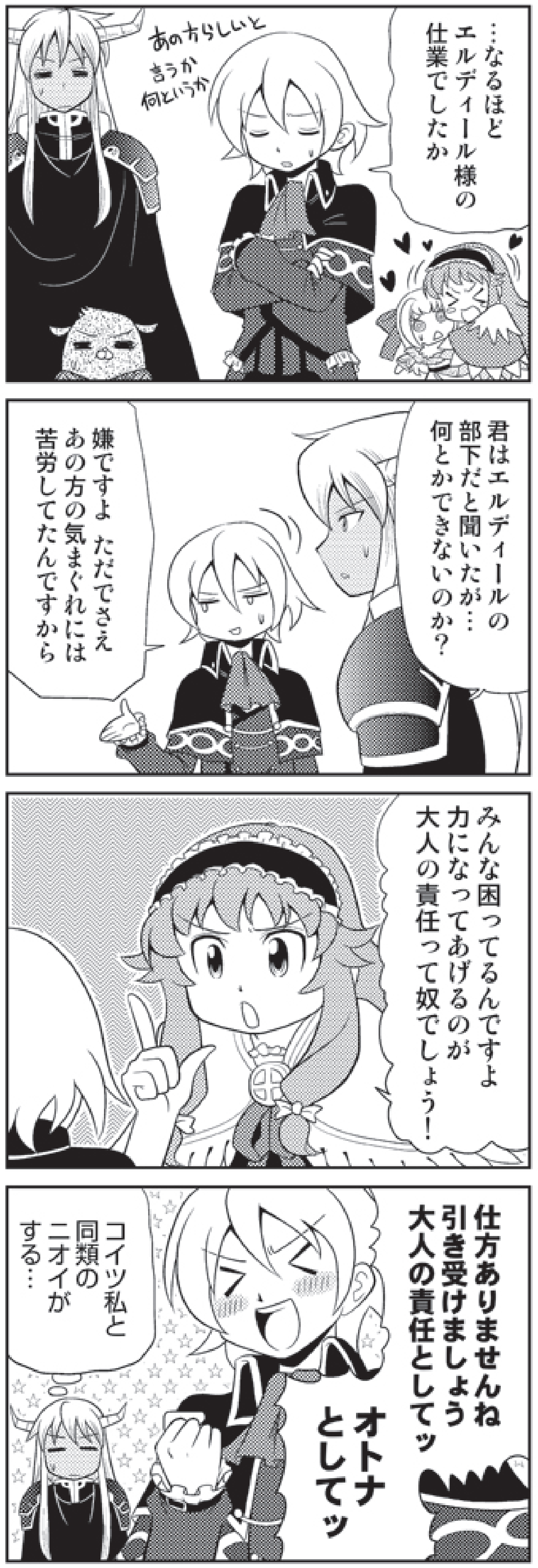
案内役の黄昏



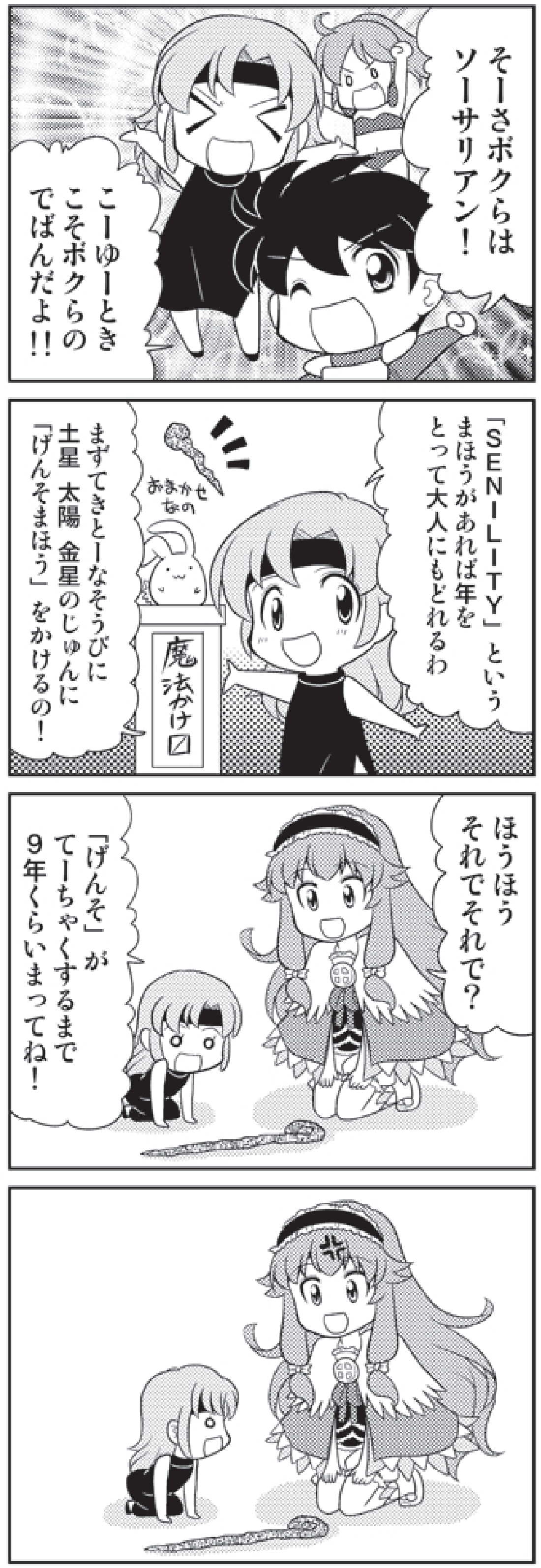
夢のひとこと



同類臭



老化とソーサリアン



アガットちゃん

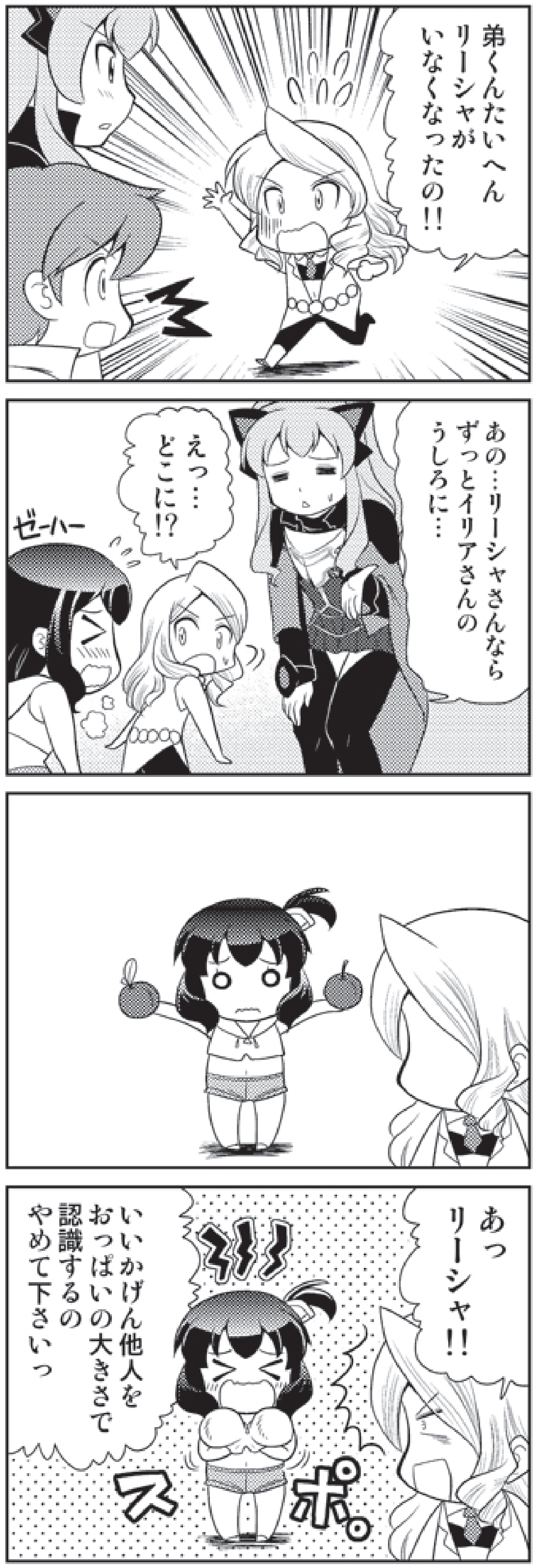


碧の軌跡終了後位5

ヨシュアと大事件



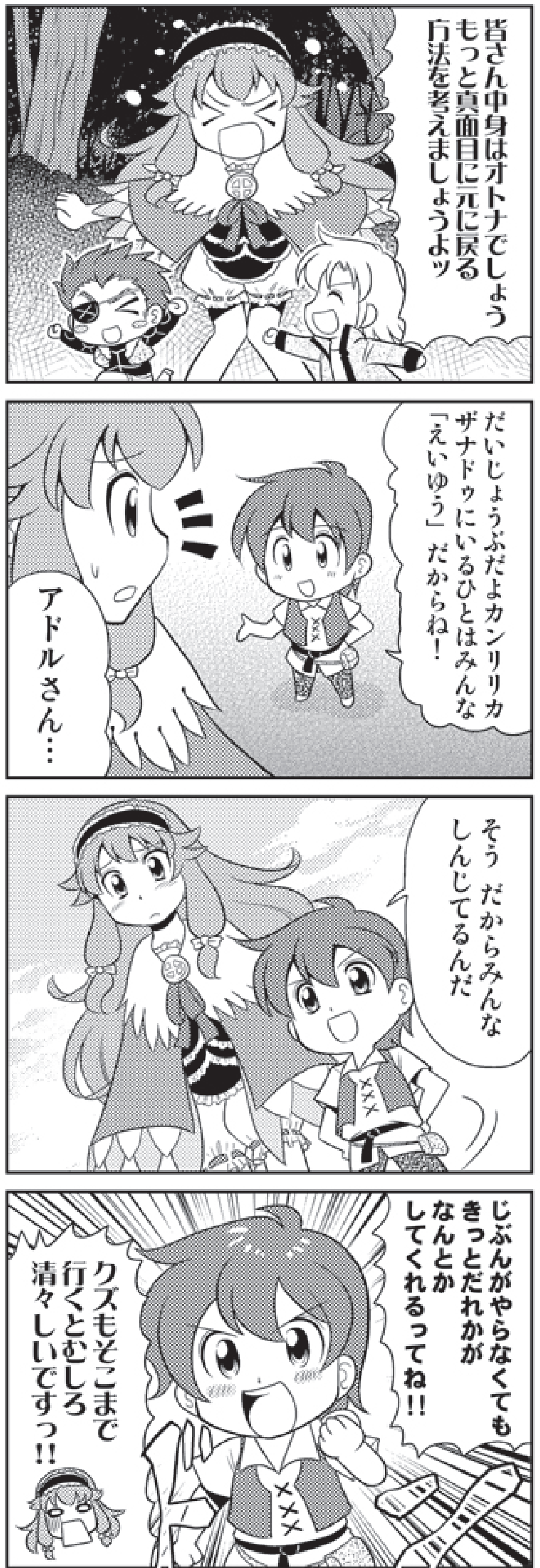
他人の顔が覚えられません



ウワサのお兄さん



英雄達のポリシー



失敗作



デカい男

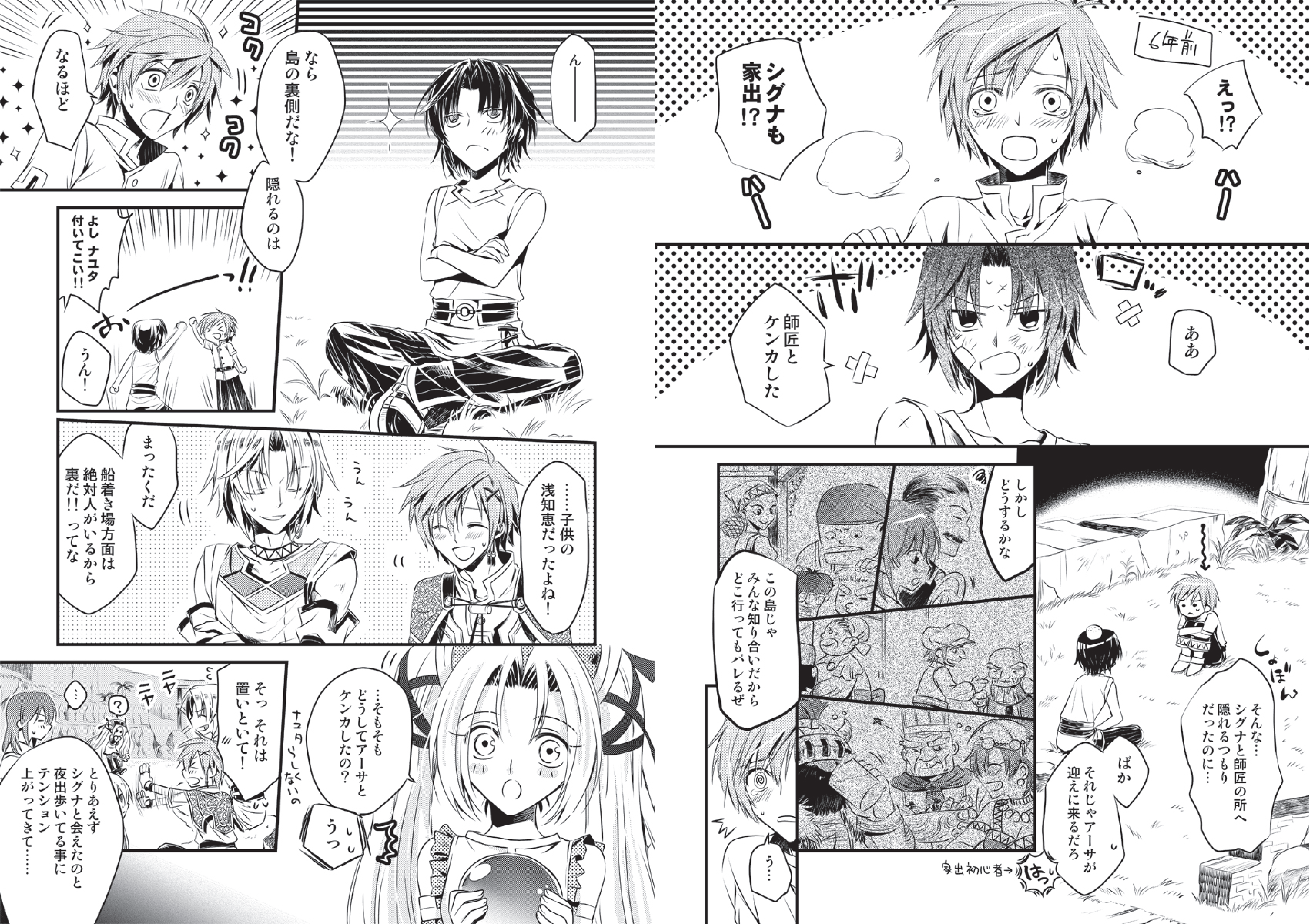


デカい＝見事な筋肉を意味するボディビル用語


少年期における
家出的解決
〜優しい思い出〜
透春 アヲ
キャッ
キャッ
兄ちゃんたちー!
ベルの挑戦状その2クリアできそうー?
きゃっ
きゃ♪
危ないから家で待ってなー!
ぱしゃっ
うーん 今回は結構難しいな…
!
おい ナユタ!
島中回ってるのに




うわあ…！懐かしい…!!
なっ！まだあったんだなーここ
あの〜
…この洞窟がどうかしたの？二人とも
ノイ！
見つかった？
えっと…まだなの…
…へへ ここはね
僕が姉さんとケンカして 初めて家出した場所なんだ
あーーあったわねぇそんなことも
なつかしい！
ナユタが家出…
シグナならわかるけど
この前もオルバスさんにゲンコツされてたから
休けい中
見てるなー…クレハ…
シグナも一緒に家出したんだよね
ムム
そうそう この島に来たばっかりで師匠とはよくケンカしてたからな
シグナの所に行けば何とかなると思って訪ねたんだよねー


6年前
えっ!?
シグナも家出!?
ああ
師匠とケンカした
しかしどうするかな
この島じゃみんな知り合いだからどこ行ってもバレるぜ
しょぼん
そんな…シグナと師匠の所へ隠れるつもりだったのに…
ばか それじゃアーサが迎えに来るだろ
う…
家出初心者→
はっ
ん――――
なら島の裏側だな!
隠れるのは
なるほど
コクコク
よし ナユタ付いてこい!!
お―――っ!!
うん!
……子供の浅知恵だったよね!
うん うん
まったくだ 船着き場方面は絶対人がいるから裏だ!! ってな
…そもそもどうしてアーサとケンカしたの?
ナユタらしくないの
うっ
そっ それは置いといて!
ニヤ ニヤ
…
?
とりあえず シグナと会えたのと夜出歩いてる事にテンション上がってきて……


家出だっていうのに
すごく楽しく
なってきたんだ
現在地イメージ
この辺
すなはま
ハーシェル家
村 中心部
この辺って実は
来たことないんだ
ドキ
ドキ
危ない
から…
本当に裏側
だもんな
おっ…この辺
滑るから
気をつけ
ザザザ
ツルッ
うわっ!?
ナユタッ
うおっ!?
ズルッ
タンッ
ナユタがアーサと
ケンカして家出か
お前も
やるじゃん
うっ うん
ばしゃーん…
……
ぶっぷぷぷぷぷぷ…
何も
おかしく
ないのにな
ブクク…
うん…
ププッ
!
見ろっ
?
こんな所に
洞窟だぜ…
本当だ!
しかも何だか
明るい…?
ゴオオオオ


きれいな水色!
わっ触ったら消えるよ!
すごいっ
パキッ
シグナ! シグナッ
…シグナ?
え?
—
…ああ『星の欠片』に似てるけど何だろうなコレ
宝石?
!!
?
おっ 奥に床があるぜ
ザバァ
水って体力とられるな…
そうだね… ちょっと疲れ…
わくわくわく——!!
行ってみようぜナユタ!!
うん!!
わー!!
ナユタとシグナなら当然の行動なの
はー
ナユタはシグナと出会ってからますます好奇心が強くなっちゃって…
男なら行くだろ
ねっ!
ヒタッ
岩と人工的な石壁がある…
すごい…!
ぱしゃ ぱしゃ
こういう《裏側》を見るとやっぱり遺跡が積み重なった島って分かるな
そうだね…
あっ!!


パァァァ
うわぁ…
まるで夜空だ…!
あぁ…
洞窟の中だってのにきれいだな――
すごい…!
姉さんに見せてもらった『星の欠片』にも美しい景色が映ったけど
残され島にもあったんだね――…
姉さんにも見せたいな…!
…あ
……


……
父さんと母さんが死んで
姉さんは僕の『親』にもなってる
――姉さんが一番大変なのに
…僕 姉さんにひどい事を言っちゃったんだ
――哀しい顔してた
なのに…
じ
わっ
ちょっ
泣くなよナユタ!!
ギョッ
う～…
悪ぶってみたけどムリでした!!
…仕方がないかお前には家出は無理だよな
一緒に帰ってあやま…
!


げっ！
潮が満ちてきた
早くここから出ないと溺れちゃうよっ
ああ！
うん！
手！
離すなよ！
くっ…
入り口が…
うん
よし…
息止めて一気に行こう
何とかなるさ
絶対！
うん！
せーの…
落ち着け
後ろを振り返って
えっ…



ガッ
師匠!?
ドラッドさんにアクスさんも!?
私もいるわよナユタ♪
ヒョ。
ホッ
えっ姉さん!?
どうしてここが…
図解☆
ナユタたち ↓ IN
ハージェル家
どうくつ
墓地
スクルプ家
ここにも入口発見!!
ナユタ達を探していたらね
スクルプさんが「家の下?から声が聞こえる」って言ってたの
調べてみたらどうやらここに繋がってたのよ
アクスさんが満潮の情報くれたからあわてて来たの
ヘナヘナ～
さあ 危ないから行くわよ



ぶわっ
うわぁ~
ザザ
いわゆる「初めての大冒険」は大失敗だったなー
当然すっげー怒られたし…
そんな事があったの…
もーあんたたちは…
本当は皆で二人を探し回って島中大わらわだったんだからね!
一番心配して泣きながら探してた
へへ…ごめんね
小さい島だからすぐ情報は伝わるし絆が強いからすぐ心配して探してくれるんだね
うん嬉しい事だよね!



で
結局ケンカの原因って何だったの？ナユタ
？
すくっ
ククク
だな！
…秘密！
さっ ベルの依頼の続きをしよう！
えっ
あっ あのー
…ナユタがはぐらかすなんて珍しいの…
ねぇ ライラは知ってる？
……
秘密
いわない！
え〜〜〜!!
ナユタの名誉のためだもの！
う――
ピタッ
…そういえばここの洞窟って大人たちに隠されてなかったっけ？
危ないから
そういえばそうだよな――
でもそれが開いてる…？
もしやこの中…に…？
あ…
わい
やい
ブーティとかも関わってるのかも！力強いし！
ノイに見てきてもらうか！
やい
え…あのぉ…
…あれ？もしかしてノイも関わって…
ドキッ
えっ
…
クスッ
姉さんヒドイよ！


英雄伝説 零の軌跡
午後の紅茶にお砂糖を
FB ファルコムBOOKS
著者：むらさきゆきや
イラスト：窪茶
こんな『零の軌跡』もアリ!?
日本ファルコムの大ヒットＲＰＧ『零の軌跡』・『碧の軌跡』の主人公【特務支援課】の日常は意外とまったり!?　本編とは一味違った彼らのゆる〜い毎日を描いて『月刊Falcommagazine』で大人気を博したノベライズがついに単行本で登場！
12月6日発売!!
価格：1,155円（税込）
ISBN：978-4-89610-255-0
©Nihon Falcom Corp. All right reserved.
発行：フィールドワイ
発売：メディアパル
フィールドワイのHPはこちら
www.field-y.co.jp


ジメシメジ尽くし料理
子供ってキノコ嫌いよね
さあ 父さん達がいなくても立派な男の子になるため好き嫌いをなくしましょう！
い…いくら何でもやりすぎじゃ…
姉さんのバカ!!
コレ!?
…ポポの触角!?
挑戦状のさがし物
ごめんねなのー
ミーだよー!!
大きな功績を残した英雄の
遺跡塔に登ったのか…オレたちに似てきたな
ナユタったら頑固だから食べたくなくて飛び出して行っちゃったのよね
でも家出なんて男の子の通過儀礼だからちょっと嬉しかったり…♪
「語られなかった」小さな微笑ましい冒険の物語――
おわり

英雄伝説 空の軌跡
～リベール王国スナップショット～

第10回『凸凹ベター・ハーフ』

著：はせがわみやび

1.

ミュラー・ヴァンダールは、エレボニア帝国軍の第七機甲師団に所属する軍人である。
階級は少佐。
現在、隣国のリベール王国に駐在武官として勤めている。
だが、それは表向きの任務であった。
その裏で、とある帝国の重要人物をリベール王国内にてサポートするという特殊任務を帯びていた。
サポート……お守りとも言う。
そのとある人物のことを考えるたびに、ミュラーは頭が重くなり、胃がしくしくと痛みだし、心は真冬の空のごとく淀んで憂鬱になる。ため息をつくのも毎度のことだ。
ミュラーは骨の髄まで軍人だった。
好きな言葉は規律と協調。
嫌いな言葉は自由と奔放。
——だったはずだ。
はずなのだが……。

帝国と境を接するリベール王国の北部。
霧降り渓谷の人目のつかない奥に、洞窟を抜けねば辿りつけない空地があり、そこに空賊たちが砦を作って盗んだ飛行艇を隠していた。
その空賊艇が帝国製であったために、ミュラーが引き取り役として赴くことになった。
ところまでは良かったのだが……。
目の前の眼鏡の女性を前にして、ミュラーは少々困惑を隠せない。
少女と言っては失礼になる。礼節に気を配るミュラーである。そこは間違えたくない。
彼女の年齢は二十歳ほどだと思われた。
ただ絶対にそれより上ではないはずだ。
この落ち着きのなさは——。
明るい色のブラウンの髪をしていて、頭の後ろで黄色いリボンで留めていた。
特徴的なのは、小さな丸い眼鏡と眼鏡の奥のきらきらした瞳。一刻も視線を留まらせることなく、あたりを探るように始終動き回っている。
空き地に鎮座し夜間照明に照らされて輝く空賊艇だけでなく、警備している兵士たちや、あたりの風景まで彼女の視線を逃れることはできていない。
好奇心旺盛なのだ。
守備隊長に訊いたところでは彼女はマスコミの人間だという。
ならば頷ける。
彼女はミュラーを見つけるとすぐに駆け寄ってきた。まじまじと遠慮なく見つめられてしまった。
驚かされたのは駆け寄ってきた理由だった。ミュラーを見て、放った言葉。見たことがない制服だと言い、彼をリベールの人間ではないとおそらく一目で見抜いた。
だからこそすぐさまに近づいてきたのだろう。油断のならない観察眼を持っている。
こういう厄介な瞳を持っている人物にミュラーは心当たりがある。
ありすぎる。
そう……ミュラーにとっては嫌な予感しかしない、あの、とある人物。
首を振ってミュラーは予感を振り払った。
眼鏡の少女が自己紹介をしてくる。
「《リベール通信》っていう雑誌のカメラマンをしているドロシー・ハイアットで～す」
そう名乗った。
ミュラーも自らの身分と名前を告げる。
「ちゅーざいぶかんさんですか」
「いつもは大使館にいる」
「では、そこを離れねばならないほどの任務なのですねー」
「む……」
しまった記者相手にしゃべり過ぎたか、とミュラーは警戒

した。

だが、自分の言ったことが分かっているのかいないのか、ドロシーはすぐに話題を変えてしまった。

「わたしも、帝国の方を知っていますけど、ミュラーさんはそのひととは随分と雰囲気が違いますねー」

「ほう」

「なんというか。その方はワッフルのように柔らかいのですけど」

「柔らかいことの例えだとはわかるが、なぜワッフル」

「美味しいからです〜」

「そ、そうか」

深い裏の意味があるのかと一瞬考えてしまったミュラーである。

「ミュラーさんはカチカチに冷やして固めたアルティマアイスみたいですよぅ。刺したスプーンが跳ね返るくらいの」

「硬いことの例えだとはわかるし、自覚もあるが、なぜ食べ物に拘る。そして何故そこまで冷やして固めるのか……」

「三日くらい冷氷庫に入れておくと、そーなるんですね。うふふ。融けるまで食べられないです。風味も落ちちゃいますけど〜」

「……試したのか？」

「アイスは凍らせたほうが美味しいかなあって思ったので」

そう言って、にっこりとほほ笑むのだ。

ミュラーはドロシーが怖くなった。

得体が知れない。なんというか、自分という人間とはどこかが根本的に違う気がした。

どこかでこんな感触を得たような気もするが……。

考えこんだときだった。砦の内から兵士が駆けだしてきて、司令部からの連絡が入った事を告げた。

ミュラーは意識を切り替える。

見張りの兵士に彼女の世話を言い残し砦の中へ。

早足になりつつも、隣に付き従う兵士に訊いてみた。

どうしてマスコミを立ち入り禁止の空賊艇の場所まで案内したのか。

ラケルという名の兵士は答えた。

とても止められるような方ではありませんでした、と。

2.

時間を少し遡る。

兵士ラケルが、「止められないような方」、つまりドロシー・ハイアットと出会ったのは、空族砦の入り口にあたる洞窟の中途だった。

うろうろと左右を見廻しながら彼女は歩いていた。

「ねーちゃん、何やってんだ！」

「あ〜。人ですぅ」

「おいこら、ひとさまを指さすんじゃねえよ！ あと、あぶねえだろ、こんな処をひとりでウロツキやがって」

改造して、壁も地面も切り出した石で覆ってあるとはいえ、元は天然の細い洞窟である。ところどころ壁の崩れたところもあって枝道から魔獣が入り込んだりもする。

明りといえば十アージュごとに壁に取り付けられた燭台の炎だけだ。

ふつうの女性がひとりで歩いてよい処ではない。

「いえいえ——」

「なんだよ？」

「ひとりじゃないですよぅ。もうふたりです」

しれっとそう言って、自分自身とラケルを交互に指さし、にこっと笑顔になる。二十歳ほどに見えたが、笑顔はもっと幼く見えた。不覚にも眼鏡を掛けたその顔が可愛く見えてしまい、ラケルはどきりとしてしまう。

「あ、あんたなあ！ 出くわした俺が魔獣だったら、どうする気だったんだよ！」

そう返したら、丸いガラスの奥の目を細め、ころころと声を出して笑った。

「こんな可愛い魔獣さんはいませんよぅ」

「か——かわ……いい、だと」

「はい。まるでヒツジさんみたいです。おひげが立派ですし。もっともふもふしてると、よりヒツジさんそっくりに」

「単なる無精ひげなんだがな。てか、ヒツジは魔獣じゃねーか！」

「あ、そうでした。ヒツジさんは魔獣なのでした。ですよねぇ。これはうっかり」

てへ、と舌を出して、頭を下げた。

調子が狂うったらない。

ラケルは脱力してしまう。

と、いきなり目の前が明るく光った。まぶしさにラケルは目を細める。洞窟の壁が一瞬だけ昼間のように照らし出された。

「って、なんだ⁉」

「記念写真ですよぅ。ほら、きれいに撮れました」

いつの間にか手のなかに持っていた機械をひっくり返してラケルに見せる。

機械はカメラだった。オーバルカメラだ。投映板に、顎の下から光を浴びて目を剥いているラケルが映っている。

「うぐ。こいつは……」

暗闇に浮かぶ幽鬼のごとく不気味な顔に映っていた。夢で

うなされるレベルだ。

「可愛いですよ」

「絶対、可愛くねえよ！」

「そうですかぁ？」

「あのな。ったく……。カメラを持ってるってことは迷い込んだ観光客か？　出口まで案内してやるから付いてきな」

「いえいえ。わたしはココに用があるんです」

「は？」

「わたしはカメラマンなんです。雑誌の特集で、この訓練場の写真を撮りに来たんですよ～」

許可も取ってある、と許可証を見せてくる。

信じられないが本当だった。

王国印と、アリシア女王陛下のサイン入り取材許可証だ。陛下は毎日のように百を超える書類に判を押しサインをするというから、それ自体は珍しいものではないとはいえ、王国軍に所属するラケルをたじろがせるには充分な代物だった。

ドロシー・ハイアット。

王都にあるリベール通信社のカメラマン。

所属・年齢・性別・名前――書類に書き込まれたプロフィールと目の前の人物を見比べるが、どうやら本物らしかった。

「ちっ。マスコミか……」

小声でつぶやいたつもりだったのだが、しっかり聞こえていたようだ。

「はい。今日はナイアル先輩がいらっしゃいませんから、単独取材を敢行することに。緊張します～。元空賊さんたちの秘密基地で、現在は王国軍の訓練場になっているこの洞窟を、隅から隅まで取材させていただきたくですね――おっ、あちらに何か見えてきましたよ？」

「っと、おいこら待てっての！」

聞こえているはずだが、ドロシーはスタスタと歩き出していた。

「おっと、分かれ道ですねえ。右と左と、どちらに行きましょう？」

「聞けよっ、おまえ――」

くるっと振り返られた。

「あ、わたしのことは、ドロシーって呼んでいただけると嬉しいです～。『おまえ』じゃなくて」

そう言って、またにこっと微笑む。

「あうえっ!?」

ラケルは女性に免疫がなかった。

「はい、どうぞ」

「……ど、どろって、おま、」

「ドドロじゃありません。ドロシーですよっ」

「じゃねえよ！　そこ、左だ！」

左に曲がれば司令室として使っている部屋がある。そこなら、砦の守備隊長も詰めているはずだから、このカメラマンだという娘の処遇も決めてもらえるだろう。好き勝手に砦の中を歩き回らせるわけには……。

「あ、はい。わかりました」

「と言って、なんで右に行く」

「面白そうなので」

歩き出した。

ちょっと待てと追いかけるが、意外と足が速い。

「こ、こら。待てっての！」

「はいはい。了解ですー。聞こえてますよぅ。おおっと、階段発見！　階段は見つけたら昇らなきゃですね！」

「なんでだよ！」

全然理屈がわからない。

子どもの頃に死んだ母も他人の話を聞かない人だったような記憶があるが……。

ひょっとして女性ってやつはみんなこうなのか!?

「だから待てっての！」

3.

ドロシーは待ってくれなかった。

ゆるい階段を昇り、左手に見えてきた扉の前でようやく立ち止まる。

「ぜいぜい……。ったく、この――」

軍隊仕込みの口にしてはいけない単語をつぶやきながらラケルは追いついた。

背中に手をかけようとして、すかっとその手が空を切る。

目の前から背中が消えた。

腰を落とし、ドロシーがその場で這いつくばったからだ。

「ん～～～～んんん？」

肘を床につき、扉に張り付くような姿勢で伏せている。

スカート姿でないのが救いだが、その格好は年頃の女性としてどうなのか。

「ちょ、おまえ！」

目の前でラケルに向かって背中を向けた格好で這いつくばる若い女性に対して彼が取れる行動はひとつだけだった。すなわち――。

即座にバックステップを踏んで離れた。

「ななな、何やって――」

「ほほ～。ふむふむ」

カシャカシャとオーバルカメラをいじる音がする。

「あ、こら。ここで写真を撮るときはひとこと断ってだな――」

「おー」

何かを見つけたような声をあげながら、ようやく立ち上がる。
「ほらほら。見てください」
オーバルカメラの投映板を見せてきた。
部屋の中のようすが映っていた。
——部屋の、中？
ラケルは投映板から目を離して扉を見た。
床との間にわずかな隙間ができている。握りこぶしひとつぶんほどの、だが。
なるほど、あそこから映したわけか。
元々、天然の洞窟を改造した砦だ。扉がきちんと付いているだけマシであって、隙間のひとつふたつくらいはあってもおかしくない。
覗けるといっても、足下だけだ。
椅子の脚と、詰めている三、四人の兵士の脚しか映ってなかった。
「面白いですよね～」
「はぁ？　面白いって？　この写真がかよ……」
「はい。のんびりしてるのがよくわかるかとぉ」
言われてもラケルにはよくわからない。
脚しか映ってないのだ。
それはまあ、ここは兵士たちの部屋として割り当てられている。非番の兵士たちが気を抜いていてもおかしくはないが、軍服を着たままで素足と無駄毛をさらしていないから、まだ弛み切ってはいないと思うのだ——というか、そーゆーのって脚を見ただけでわかるもんか？
「脚の組み方でわかります～」
「ほんとかよ……」
それが本当ならたいした観察眼だ。
「あと、これじゃ、鍵をしっかり閉めてあっても、覗き放題ですよ～」
「男の脚だけ覗いて楽しいか？」
「それはそれで美しいものだとわたしは思いますが」
「見たくねえ！」
「ところで、この隙間、そのままでよろしいので？」
会話が成立してるように思えないのがつらいところだ。
「んなの、ネズミくらいしか通れねーだろ……」
「はあ。それはそうなのですが……」
それ以上は言わずに、ドロシーはちらっと上目遣いでラケルを見てくる。
どきりと、心臓が跳ねた。
——いったい俺に何を期待してるんだ。そんなに部屋が密閉されてないことが重要なことなのか？　さっぱりわからねえよ！

ラケルは兵士としはまだ若かったのだ。
もし賊が侵入したら、とか。
その隙間から、そう、例えば催眠弾のようなものを投げ入れられたら、とか。
万が一の希少な可能性を想像してしまうような、有事に対して必要な臆病さをまだ備えてはいなかった。
大声の会話が聞こえたのだろう。扉が開いて、何事かと中の兵士が顔を覗かせる。
ちょうどいいとラケルは思った。
ドロシーの事を守備隊長に伝えるように頼む。
「ラケル、おまえが伝えないのか？」
「あの野ろ——いや、あの女は、誰かが見てないと、どこに行っちまうか知れたもんじゃねえから……」
「なるほど、そのようだな」
「えっ？」
振り返ると、もうドロシーの姿がない。
通路の先のほうから、
「では、次に行きましょうか。どんどん取材しますよぅ！」
声が聞こえた。
「もう取材始まってるのかよ！」
「すごいご婦人のようだな……」
「ったく……。じゃあ、頼むぜ！」
遠くに見える背中を追って走り出す。
「おいこら、待ちやがれ～～！」
言っても聞かないことはそろそろわかり始めていたが叫ばずにはいられなかった。

4.

ようようドロシーに追いつく。
だが、そのあともラケルはドロシーに引きずりまわされ続けたのだ。
どんどん先へと歩いていく彼女を止めることができない。
ドロシーは好奇心の塊だった。
見つけた階段は昇らずにはいられない。
扉があれば鍵を確かめ、開けられるものなら即座に引き開けた。
許可証を手に入れた記者なのだから当然の行動なのかもしれないが、するするとラケルの手を逃れて、こうも好き放題に歩き回られると、後で上官に怒られるのではないかと冷や冷やだ。伝言が間に合ってくれればいいが。
ここが訓練場であって、たいした機密がないことが幸いだった。
とはいえ砦の奥へと進むにつれて、どうにかして止めない

と、と考えることも多くなった。

砦の奥では、洞窟の枝道や壊れた壁の隙間から魔獣が姿を見せることも多いからだ。

見つければ狩るようにしているとはいえ——それは兵士たちにとって良い訓練にもなったし——魔獣たちの数も多くて狩りきれていない。

ドロシーが危険を理解してくれることだけが救いだった。まるで遊撃士に知り合いでもいるかのように、魔獣の影を認めるとぴたりと口をつぐんだ。

魔獣の脅威を理解しているのだ。

街に住むふつうの人々は意外とわかってくれない。

気づかれないようにして脇をすり抜けた。

それでも歩みそのものを止めてくれることはなかったけれど。

「はあはあ。どこまで見て歩くつもりだよ……。いい加減にしろってーの！」

「あ、外ですよ！」

声を弾ませて足を速めた。聞いちゃいない。

ドロシー・ハイアット、恐るべし。ラケルの脳裏にその名が刻まれてしまう。二度と忘れることはないだろう。そう思ってしまった。

ラケルとドロシーが辿りついたのは、洞窟を抜けた先の開けた土地だ。

ふつうの人間が入り込めない霧降り渓谷の奥の閉ざされたその場所は、山と谷との間にできた、差し渡し一セルジュほどしかない平たい大地で。

空賊たちがここに砦を造った理由がその場所にあった。

「うわ～、前来た時と、少し雰囲気が違いますね～」

そう言って、カメラを構えると、ドロシーは目の前の崖のほうへと走り出した。

「ちょ！　おま——ドロシーさん、あぶねえっての！」

慌てて追いかける。

既に夜も遅い。空には星だけが散っていて、篝火の明かりも照明も星のほうまでは照らしてはいない。万が一にも足を滑らせたら……。

「止まりやがれ、こら」

「わー、相変わらず、おっきな谷！　怖いですよぅ」

ぴたりと止まって、盛んにカメラの閃光を焚く。

「わわわ！　こら、急に止まるなっ！」

目の前で急停止して写真を撮っているドロシーにぶつかるまいと、ラケルは避けた。

避けた先に黒々とした谷が口を開けていた。

落ちそうになったところで踏みとどまった。

「ひーっ！」

くん、と身体が引っ張られたのを感じる。

見れば、軍服の裾を小さな手が掴んでいる。ドロシーの手だった。カメラを持つ手の逆の手で、ラケルの服を引いたのだ。

ささやかな力だから、そのおかげで落ちなかったとは言えないが、それでもどうやら助けようとはしてくれたらしい。

「ダメですよぅ。暗いところで闇雲に走っちゃ危ないですー」

「だ、誰のせいだと……」

「良かったですね。落ちたら、助かりませんよ、ココ」

言って、ドロシーは足下を指さした。

細い指の向こうで、千尋の谷が闇の顎を開けている。ぞくりと背筋が凍った。

「う……。わりぃな」

「いえいえ。あーーーー！」

大声を上げながらドロシーが顔を横に向けている。

しまった、と思った。

この訓練所ゆいいつの機密というべきものがそこにある。

空賊たちが帝国から持ち込んだ飛行艇。彼らが山猫号と呼んでいた空賊艇だ。

照明がアーツの光を投げかけ、暗闇の中に鋼鉄の肌を浮かび上がらせている。

すでにドロシーの関心は空賊艇にあった。

「へ～、まだこんな所に置かれてたんですね～」

言葉から推し量ると、どうやら彼女はここに山猫号があったことを知っているようだ。

ラケルはほっとした。

してみると、どうやら彼女にはほとんど隠しておかねばならないことはないようだ。

写真を撮りまくるドロシーの向こうには、帝国のお偉いさん——駐在武官だと言うミュラー少佐と訓練所の守備隊長の姿があった。

守備隊長がココにいるということは、ドロシーを連れてきたのはあながち失敗だったとは言えないかもしれない。

ラケルとしては、自分のほうが連れてこられたみたいだと感じていたが。

「……彼女は？」

と、ミュラー少佐が隣の守備隊長へと尋ねるのが聞こえた。

「はは、マスコミの人間ですよ」

どうやら守備隊長には既に伝わっていたようだ。

ラケルはようやくドロシーというバトンを他の人物へと渡せそうだと思った。

——という具合だったんです。

問われたラケルは、事の次第を帝国軍人の少佐に伝えた。

司令部に当てている部屋へと向かう途中だった。
　通信器の備えてあるその部屋の前でラケルは少佐とは別れる。本部から入った連絡を受けに少佐と守備隊長は部屋の中へと入り、ラケルは解放された。
　一介の兵士には本部からの連絡事項を聞く権利はない。
　休憩部屋へと戻った。
　落ち着く暇もなく、当直だったことを思い出し、重い腰を上げた。
　担当の歩哨場所へと向かいながら、とんでもない女性だったなとラケルは振り返る。
　あまりにも奔放でユニークだった。ユニークすぎる。
　なかなか可愛かったな……。
　まあ――相手をするには骨が折れそうだが。
　果たして、あのカメラマンに付き合って行動できる人間なんているのだろうか。
　そう、思わないでもない……。

5.

　ぐう、とドロシーのお腹が鳴った。
「はら～。そういえば、昼から食べていませんでした……」
　ひととおり空賊艇を写真に収めたところで、ドロシーは砦の内へと戻った。
　歩いている途中で自分が何も食べていないことを思い出す。カメラを構えているときは気にならなかったが、そろそろ限界だ。
　通りかかった兵士に食事のできる場所を聞いた。
　熟練の兵と見えるその年老いた男は、浅黒く傷の走った顔を辛うじて笑みだとわかる形に歪めて、ドロシーに言う。
「糧食でよけりゃあるぜ」
「はあ」
　糧食というのは食糧のことだ。備蓄されたものや、旅人が携行する食糧のことをそう呼ぶ。レーションなどと言うこともある。ただ、軍人がこういう声音で糧食とわざわざ口にしたときはたいてい――まずい。
「この先に部屋があったろ？」
「先ですかぁ？　えと、ここはどこでしたっけ？」
　そう尋ねたら、呆れたような顔をされた。
「あんた、あれだろう？　リベール通信の」
「はい。ドロシーと申します。カメラマンですよぅ」
「聞いてるぜ。ここじゃもう知らない奴はいないだろうな」
「えっ。なんで？」
「なんでだろうな。わはは！　まあ、細けえことはいいだろ。

リベール通信は俺もよく読んでる。あんたんとこの、ライア――いや、ナイアルだったか？　いい記事を書く」
　意外な名前が出てきて、ドロシーは驚いた。
「はあ」
「なんだ、自分の社の記者くらい覚えてねえのかよ。しかたねえな」
「いえその……」
「相手が国王だろうが貴族だろうが、言うときゃ言うってスタンスの記事だからな。反発するやつも多いが……近頃の若い奴にしちゃ骨がある。俺は前から公平な記事を書くたいした奴だと見込んでいるんだぜ」
「ほう、へえ、はあ」
「薄い奴だな。もっと喜べ！　てめえんとこの記者を誉めてやってんだぞ？」
　そう言って、ガハハと笑った。
「ま、いいけどな！　メシを食いたきゃ、とにかくこの先にずっと行け。右に扉が見えてくるからよ。食堂になってる。誰かに頼みゃ、糧食を出してくれるさ！」
「わ、わかりました。ありがとうございます」
　ドロシーは礼を言ったが、その軍人はひらひらと背中越しに手を振りながら、もう歩き去っていた。
　反対側にドロシーも歩き出す。
　道々歩きながら、ドロシーは老兵士とのやりとりを思い出して、思わず頬を弛めてしまった。
　――これは、ぜひナイアル先輩に伝えてあげましょう。
　ドロシーはナイアルが褒められるのは苦手だと知っているのだ。さぞかし、嫌がることだろう。
「うんうん。たまには仕返ししませんと。うふふ」
　ナイアルときたら、すぐにドロシーをトンチキだのポンコツだの言うのだ。
　うら若き乙女に対する形容としては如何なものかと思う。
　ドロシーには自覚がなかった。
「おっと、あれがおっしゃっていた扉ですねー」
　扉を叩くと、返事があった。
　中には年配の兵士が一名。
　食事をさせてもらえるだろうかと頼むと、その兵士は、テーブルに座って待っていろと言った。
　小さな部屋の中には、四人ほどが掛けられる四角いテーブルがひとつ。
　そこに座っていると、ノックの音とともに扉が開いた。他の兵士たちとは違う服を着た男がひとり顔を覗かせる。誰かと思えば帝国軍少佐ミュラーだ。どうやら先ほどの用事は済ませたらしい。
　部屋の奥へとひっこんでいた兵士が顔を見せる。

「おっと、帝国の旦那。どうしやした？」
「ああ、何か食べるものはないかと思ってな」
　兵士が、わかりやしたと答えると、ミュラーはドロシーの目の前に腰を下ろした。
　ふと顔をあげてドロシーを見る。
「君は……」
「ドロシーですよぅ」
「そうだったな。リベール通信の……」
「はい。カメラマンです～」
「いい取材はできたかな？」
「そりゃもう！　可愛い写真がいっぱい！」
　か、かわいい？　と、口の中でミュラーがつぶやいた。ドロシーにはしっかり聞こえていたが、あえて咎めはしなかった。こういう反応には馴れている。
　風景の表情が見えるドロシーだが、それを他人が理解してくれないことには、さすがにそろそろ気付いていた。
　食事が運ばれてきた。
　並べられた料理を見て、ドロシーは驚いてしまう。
　白身魚のムニエル……霜降りヒレ肉のステーキ……アゼリアの実と完熟リンゴを入れたフルーツサラダ……コーンスープ。
　誰だこれを糧食などと言ったのは。
　しかも、どれも温かいものは熱々で、冷たいものは冷やしてあった。
　わずかな時間で調理して出してきてくれた。
「ほらよ。冷めねえうちに食いな、嬢ちゃん」
「あ、はい」
「帝国の旦那は酒はいくかい？」
　言いながら、くいっと手でコップを傾ける仕草をする。
「任務中だ」
「かーッ！　相変わらず硬いねぇ。休憩時間に、ちこっとくらい呑んだって罰はあたらねえぜ」
「罰はあたらないかもしれないが――」
　ミュラーが言った。
「自分が許せなくなる」
　さらっと気負うでもなく言われ兵士が絶句した。
　ドロシーも驚いた。これは想像以上の堅物だ。しかも、それが彼にとっての自然なのだ。規律を守ることに無理を感じていない。
　気まずい沈黙があたりに漂う。
　ぐぅ～。
　ドロシーのお腹は残念ながら空気を読まなかった。

6.

　思わずドロシーの頬が熱くなった。
　彼女だって恥ずかしくなることはある。滅多にないが。
「あ、じゃ、じゃあ、いただきます～」
「いただこう」
　沈黙の中で食事が始まった。
　――うう、気まずいです～。
　ドロシーにしては珍しく気おくれしてしまっていた。
　スプーンですくってコーンスープから口をつける。
　はっと目を見開いた。
「こ、これは……」
「ほう」
「美味しいです～～～～っ」
　眼鏡の奥の瞳を細めて、幸せそうにドロシーは言った。
　ひと匙、ふた匙と進むに連れて、幸福感で満ちてくる。
　食事の美味しさにドロシーの緊張はすっかり溶け切っていた。
　いつもの調子があっという間に戻ってくる。
　舌先も滑らかにまわるようになって、盛んにミュラーに話しかけていた。
　ミュラーのほうも食事に驚いているようだ。彼はこの訓練所に来てからしばらく経っているはずだったが、帝国軍で出る食事と比べると天地の差だとまで言った。
「そう言ってくれると腕を振るった甲斐があるぜ」
　兵士がにんまりと笑いながら言った。
　ということは、調理の腕次第でここまで美味しくなるということだろうか？
　何にせよ、食事は楽しくあるべきがモットーのドロシーとしては、ありがたいことだった。
　と同時にミュラーに対しての認識を改める。
　何よりも、素直に帝国軍と比べてまで誉めてくれたのが意外だった。
　軍人というのは、どんなときでも忠誠を誓っている自国を一番と評するものだと思っていた。だが、どうやらこのミュラーは違うらしい。
　他国とはいえ認めるべきところは認める。
　正々堂々とした堅物なのだ。
　考えてみれば、敵の評価を誤るのは自軍に不利になるわけだから、ひょっとしたら当然なのかもしれない。
　とはいえ、公平さというのは理屈ではわかっていても実行するのは難しいと思うのだ。
　不意にドロシーの脳裏に先ほどの老兵とのやりとりが浮かんだ。

『俺は前から公平な記事を書くたいした奴だと見込んでいるんだぜ』

確かそんなことを言っていなかったか？

「ははあ、なるほど……」

ドロシーは目の間の軍人に対して好感をもつようになっていたが、その理由がなんとなくわかるような……。

「こんなに見た目は違いますのにねぇ～」

「……何か？」

冴え冴えとした瞳で見つめられて、ドロシーは思わず視線を逸らした。

どこかの先輩と比べて大きく違うのは、あっちが極めつきに目つきが悪いのに、こっちは十人女性がいたら十人ともが頬を染めてしまうような美貌を持っていることだ。

――とと、ごめんなさい。

と、空中の誰かに対して謝っておく。

「あ、そういえばですねぇ……」

取り繕うように言葉を紡ぎ始めてからドロシーはふと思い出した。

7.

「魔獣を見た……？」

「はい」

リベール通信社のカメラマンが言った。

詳しく聞いてみると、ドロシーがこの訓練所に入ってから、空賊艇のある空地へとやってくるまでの間のことだったようだ。

通路を徘徊している魔獣に出くわしたらしい。気付かれないようにそっと脇を通り抜けてきたと語った。

外見の描写からすると小型の魔獣だ。

ゴールドラッチュウかエルダーオウルあたり……。

ふむ、とミュラーは腕を組む。

「そのままにしてて、いいんですか？」

「いちおう報告をしておくが、報告までだな。俺はエレボニアの人間であって、この国の人間ではない。それ以上は越権行為だと思う。リベール王国の考えることだろう」

「そ、それはそうですが～」

「何か問題が？」

「危ないですよぅ。いくら軍人さんばかりだからと言って、たまにはわたしみたいな普通の人も訪れるんでしょうし。わざと放っておくにも限度があるかと……」

ミュラーは聞き咎めた。

――今、なんと言った？

「わざと？」

「なのだと思うのですけどぉ」

「ほう？　どういう理由でそんなことをすると思う？」

ミュラーは、もちろん答えを知っていたが、このカメラマンの意見を聞いてみたかったのだ。

「ええと……兵士さんたちの実戦訓練の相手、というのがまずあります」

「なるほど。他には？」

「警備上の理由かと」

その言葉にミュラーは内心で驚いてしまう。

「どうして魔獣を放し飼いにすることが警備上の理由なのだ？」

「天然の衛兵代わりになります～」

ぽやぽやした天然口調で話すドロシーだったが、勘は鋭いようだ。自分の見つけた事実から因果を推定する知性もある。

「例えば、泥棒さんたちが忍び込んだりしても、まずは魔獣さんたちを相手にしないといけなくなりますから」

「それが……正しいのだとしたら、ここの兵士たちはある程度は魔獣たちをそのままにしておくだろうな……」

「わかりますけど、でも、わたしが歩くようなところにいるのはやりすぎですよぅ」

「討ち漏らしたのだろう。伝えておけば狩ってくれる。安心してほしい。帝国人の俺が請け負うことではないが」

そこで調理をしてくれた兵士が食後の紅茶をもってきてくれた。

しばらくは香りを楽しむために口をつぐむ。

芳醇な紅茶の味を楽しんでいると、ドロシーがふたたび口を開いた。

「そういえば、わたしも、エレボニアの方に知り合いがいますよ～」

「ふむ？」

「詩人さんなんだそうです。知り合いの遊撃士の子ととっても親しくて。一緒に仲良く旅をしていたり……」

何故だろう。そのときミュラーはぞくりと肌が粟立ったのだ。

嫌な予感しかしないというやつだ。

「音楽が得意でして、特にピアノとリュートですね～。歌声もきれいで、時と場合を選ばずに弾いては唄ってくれるんですよね～」

それは時と場合を選ばなくてはマズイのではなかろうか？

「お酒も大好きで、お金も無いのに、そのお店でいちばん高いお酒を呑んで捕まってしまったことがあったらしいです」

ダメ人間すぎる……。ミュラーは口の中だけでつぶやいた。

「きれいな女の人が大好きで——わたしも好きですけれど、だって写真映えするんですよね、すっごく。で、その人は、ところ構わず愛を語っては路上でも大声で愛の唄を歌ったり」

「いやもう結構だ」

ものすごい既視感を感じた。なんだろう、その残念な吟遊詩人は。同じエレボニア人として恥ずかしい。

「もうやめてくれ。なんだか頭が痛くなってきた」

「そうですかぁ？」

「思い出したくない知り合いを思い出してしまってな」

「はあ。あの……そのミュラーさんのお友達って、どんな方なんですか？」

友達、と言われて躊躇した。

自分は彼の友達なのだろうかと自問してしまう。

確かに、彼のほうはミュラーのことをしばしば「やあ、親友」と言ってはいた。

だが、王位継承権がないとはいえ皇族と、一軍人の、それも少佐に過ぎない自分とでは身分が違いすぎる。

そんなふたりに友情が成立するものだろうか。

恐れ多いのではないか。

「で、どんな方なんですか？」

ドロシーの質問は終わっていなかった。聞きだすまでは梃子でも動かないぞという顔をしている。

8.

ミュラーはため息とともに持っていた紅茶のカップをソーサーに置いた。

かちんと音がする。

口を開いた。

「変人だ」

「は？」

「変態かもしれんな」

「ひゃっ？」

「自由勝手で人の言うことを聞かず、始終あちこちうろつき回って騒動を起こしたあげくに、後始末だけは人に押しつけてくる……」

「なんと」

「口が軽く態度も軽く根性もないな。朝は起こさねばいつまでも寝ているし、夜は強引にベッドに叩きこまない限りはいつまでも騒いでいる」

「お、おかあさん……」

「寝つきがいいのは酒を呑み過ぎたときだけだ。あのトンチキのポンコツめ……」

言っているうちに何だか無性に腹が立ってきた。

まったく、あいつにはどれほどの苦労をさせられたことか——。

「ほえぇぇえ。それはまた……」

「せいぜい悪友だ。いやいっそ腐れ縁かもしれん」

「良いお友達をお持ちですねえ」

「何？」

耳を疑った。

今の自分の言葉からどうしてその単語が出る。

「どこがだ？」

ミュラーはつい無関係の民間人をきつく睨んでしまった。

そんなことはミュラーとしては覚えがないことだ。ありえないことが起こったと、慌てて視線を逸らしてしまう。

好きな言葉は規律と協調。

嫌いな言葉は自由と奔放。

理性的な振る舞いこそが栄えある帝国軍人として求められる行為であって一時の感情に任せて振る舞うなど許されない——。

「だってミュラーさん」

リベール通信社のカメラマン、ドロシー・ハイアットが言うのだ。

「その方のお話をするとき、とっても楽しそうでしたから」

「っ！　いや、その……」

そんなまさか。

「安心しました～」

「あ、安心？」

はい、とドロシーが頷いた。

「わたし、ミュラーさんがさっきまで、ちょっと怖かったですー」

「あ、ああ。すまないな。睨んでしまったりして」

「いえいえ、そうではなくてですねえ。わたし、ミュラーさんって、ほら、これ見てください」

そう言ってオーバル・カメラの投映板を見せてくる。

そこにはミュラーの顔が映し出されていた。いつの間に撮ったのか、それは空賊艇の前で最初に出会ったときのものだ。

帝国製飛行艇の前に突然現れた謎の人物——ドロシーのことだが。そんな胡乱な人物を見つけたときのミュラーの瞳は警戒を強く滲ませており、容易に相手を信じるような人物には見えない。

よくこんな表情をあの一瞬で捉えたものだとミュラーは内心で感嘆してしまう。

これを見れば、ミュラー・ヴァンダールという人物がどん

な男なのか、誰でもわかるだろう。

　警戒心が強く、猜疑心も強く、融通が利かなくて、堅物で面白味のない――言ってて自分が嫌になってくる……。確かに怖がられて当然な――。

「どんな顔もそのひとの一面でしかないですけど、他の顔がなかなか見えてこなくて心配していたんですよぅ。で、安心しました」

　そう、ニコニコしながら言うのだ。

「ぐ」

「硬いように見えたけど、柔らかい表情もするんだなあって。よっぽどそのご友人が柔らかい方なんですねぇ」

「柔らかすぎるのも困りものだと思うがな」

「良いコンビってことですね！　相性って大事ですよぅ。ベターハーフってやつです～」

　ドロシーが言った。

　憮然とした表情のままミュラーは指摘する。

「それは普通は伴侶に対して使う言葉だ」

「そーなんですか？」

「たいていは夫が妻に対して言う。マイ・ベターハーフと。だいたいそんなに凸凹な羽同士をくっつけても満足に飛べまい……」

「きっと走ってるんですよ！　ペングーさんみたいに！」

　そこで空を飛ばない鳥を例えに出されても……それに。

「ペングーは魔獣だ！」

「おっと。そうでした。これはうっかり。でも可愛いですからー。ペングーの羽って柔らかそうですし」

　そんなベターハーフは激しくお断りしたい！

　だが、例え言っても、目の前の娘が笑顔のままだろうことは間違いなくて。

　言い負かされた気がしてミュラーはつい反撃してしまった。

「ということは、君にもぴったりのコンビがどこかにいるということかな」

「ああ、はい。そうなりますねー。たぶん、いるんじゃないでしょうかぁ」

　その人物におおいに同情してしまうミュラーだった。

　柔らかい人物に振り回される硬い人間の苦労は、おそらく大陸の誰よりも自分は詳しいに違いなかった。

　賭けてもいい。帝国軍人は賭けなどしないが。

　目の前で微笑みながら紅茶の残りを飲み干すドロシーを見つめる。

　やれやれ、と。ミュラーは悟った。

　どうあっても、自分はこのタイプの人間には勝てないらしい。

　彼女が紅茶を飲み終わるのを待ってミュラーは立ち上がった。

「さて、では案内してもらおうか」

「はい？　わたしが、ですかぁ？　あの……わたしは、今日久しぶりにここに来たのですけれど。どこに案内すればいいのでしょう？」

「君がさっき言っただろう？　魔獣を見たという場所だ。食事も終えたことだし、仕事に取り掛かる前に運動不足を解消しておくのも悪くない」

「放っておくと言ってたような」

「たまたま訓練場内を歩いているときに魔獣に出くわし、襲われた。だから退治した。これで問題あるまい」

　きょとん、とドロシーが目を丸くする。

　一矢報いた、と思うミュラーである。

　ようやく理解したらしいドロシーの顔に笑みが浮かぶ。

「やっぱり……」

「何を笑っている」

「真面目ですよぅ、ミュラーさんは」

　それには答えずに先に立って部屋を出た。

「ま、待ってください。いま、案内します～」

　追いかけてくるのがわかるが振り向かなかった。

　照れている顔など見せるものではない、帝国軍人は。

　それに――。

　うっかり振り向いて、今の顔をスナップショットに撮られるのだけは勘弁してほしいのだ。そんな顔を見られたくない人物が少なくともひとり、ミュラーにはいる。

　ひとりいれば。

　充分だとも思った。

END

人生楽キャラずらし

jdkバンドのドラマー・オカジがファルコムと音楽と人生について熱く語ります！

「空の軌跡ざんまい」

今作でざんまいシリーズも4作目。このざんまいシリーズでは、神藤さん、カミチャ、僕という三人のアレンジャーが一丸となって毎度、鋭意制作しているわけなのですが、特にお互いのアレンジの方向などは相談せず、かなり好き勝手にやらせて頂いております。それでも何故かアルバムとして完成すると、かなりバランスの良いものができあがってしまうから不思議。いつもできあがったものを聞く度に「今回かなり良くないですか？」なんて言い合ってるという（笑）。

今回のアルバムに関しても御多分に漏れず、かなり好き勝手にやらせて頂いたわけですが、せっかくなので、僕が担当した楽曲たちのそれぞれのアレンジコンセプトなどを解説していきたいと思います。

M-3 「Fateful Confrontation」

何故にあのメタルの超名曲をこんなジャジーなアレンジにしてしまうのか!? と思う方も多いかもしれません。ですが、この楽曲は超名曲な故に、そもそもの原曲も素晴らしいし、歌物としてアレンジされた「Maybe it was fated」なんていう楽曲もあります。そこでまたメタルなアレンジをしたところで、結局の所、原曲のただの焼き直しになってしまうんですよね。そこで、僕はこの楽曲の「メロディー」に注目してみました。実はとてもメロウで美しく、バラードとしても全然いけるのです。

しかしただのバラードを作って満足していては、ファルコムアレンジ楽曲の歴史に残る名曲にはなりません。ファルコムのアレンジ楽曲というのは、そもそもスーパーアレンジバージョン、パーフェクトコレクションの頃から一筋縄でいくものではなかったのです！

驚くようなアレンジ、そしてビックリするようなクオリティー。これがファルコムアレンジの真髄なのではないでしょうか。そういう意味で言えば、ファルコムアレンジは「演奏」も重要なポイント。そこでピアニスト／キーボーディスト・成澤 功章さんをフューチャーし、最高に渋くてメロウでカッコよい演奏をして頂きました。

こうしてこの曲は、大人なスムースジャズとして、海外のFMから流れてもおかしくないような楽曲に仕上ったというわけです。

M-5 「Overdosing Heavenly Bliss」

この曲のアレンジのテーマはサイバーロックフュージョン。もちろん、一般的にそんなジャンルは存在しないわけですが、もはや音楽のジャンルなんてすべてが混ざり合っていると言っても過言ではない昨今。こういったジャンルそのものを創造する事で新しい音の世界が拡がるのだと思っています。



やはりフュージョンという演奏重視の音楽ジャンルを意識しているわけなので、やはりプレイヤーの演奏にはこだわってレコーディングをオファーしたわけですが、オファー先がｊｄｋＢＡＮＤのアンジェロやエノちゃんだったから、まったく心配要らず。

基本、僕はデータのやり取りだけでレコーディングを終わらせてしまうので、実際に会って「ああしてくれ、こうしてくれ」とディレクションをする事は無いのですが、それにしても通常は「ちょっとここをこう演奏して欲しい」とか色々細かくオーダーするものなのです。でもふたりに関しては、最初に「こんなイメージでかっこ良くやってくれればＯＫ」とか、とんでもないオーダーの仕方をしているのにも関わらず、数日後に送られて来たデータをチェックしてみてビックリ。「なんじゃこのすんげえ演奏はっ!!」って感じでした。しかも僕のアレンジのイメージをさらに膨らませてくれるような素晴らしいテイク。もうふたつ返事で「ありがとう！ 最高！ ＯＫです！」とメールを返してお仕事終了。素晴らしきかな、ｊｄｋＢＡＮＤ！

制作スケジュールの都合上、レコーディングはドラムが最後だったのですが、こんな凄い演奏を聴



岡島俊治（Okaji）

1979年6月9日生まれ
ドラマー/パーカッショニスト/作曲、編曲家/プロデューサー
洗足学園短期大学器楽科打楽器専攻卒業。
2000年、ロックバンド『HeadPhonesPresident』のドラマーとしてデビュー。
2005年、同バンド脱退後はフリーミュージシャンとしての活動を開始。様々なアーティストのサポート、レコーディング、プロデュース等を行う。
2008年より『ファルコムjdkバンド』に参加。
主な共演歴：jdk BAND、Sixh.Opera、HeavensDust、野宮真貴、植村花菜、CORE OF SOUL、DENIAL、安藤禎央、清田愛未、中村幸代、一純悠人、momokomotion、越尾さくら…etc

かされてしまうと、僕もプレイヤーとして負けていられません。僕も気合で演奏しまくりました。ドラムソロなんかはかなり壮絶になったのではないかと。ちなみに演奏している楽器は生ドラムではなく、Roland V-Drumというエレクトリックドラムを使用しています。基本的に外スタジオを使わない制作案件の場合は、僕は大体これで演奏しています。オーディオパラアウトは勿論、MIDIアウトもできるのでDTM環境でかなり重宝します。どんなものか見てみたい方はニコニコ動画jdkTV UTILITY Vol.002回を見てみて下さいね。

M-6「Masquerade of Lies」

この楽曲に関してはオフィシャルアレンジは初という事だったので、あえて奇はてらわず、ストレートに原曲のイメージを膨らませたヘヴィーメタルアレンジに。やはりファルコムアレンジの歴史的に見ても、こういうメタルアレンジは外せません。僕も個人的にメタルは音楽的にも演奏的にも大好きなので、こういうアレンジは担当曲の中に必ず一曲は入れるようにしています。そうなってくると、僕の昔からの友人であり、旧J.D.K BAND時代からの大ファン、しかもファルコムゲーム育ちというメタルギタリスト・平松俊紀氏に声をかけないわけにはいかないわけです。彼のファルコム&ジャパメタに対する愛は相当なもので、彼と飲む時にはいつもそんな話で終始してしまう程です。ちなみに余談ですが、彼と飲む時は必ず、代々木の某チェーン居酒屋。何故かと言えば、この店はファルコムファンの間では通称「聖地」と呼ばれており、その昔、伝説の「ファルコムショップ」があった場所なのです……。

……閑話休題。

そんなわけで、この楽曲に関しては、ふたりのファルコム愛を注ぎ込むべく、TDの最後の最後まで平松さんと相談しながら制作しました。熱くほとばしるファルコム愛を感じて頂ければ幸いです。

まあ、語り出すとキリがないので、この辺りで止めておくとしましょうか。

そんなわけで、「空の軌跡さんまい」、ものすごーく気合を入れて作った自信のアルバムです。

まだ聴いてない方は、是非お手に取って頂ければと思っています。宜しくお願いします！

それではまた次回、お会いしましょう！

コテ放題

コテカナことjdkBANDボーカル小寺可南子がゲームと共に、好き放題な日々のことを描くコラム!!

第4回　終章 それでもコテラは。

▶PROFILE



日本ファルコムのゲームソングを奏でる専属バンド"jdkBAND"のボーカル。webラジオ「ファルコムラジオ"めんどくさいです…でもがんばります"」では声優水橋かおりさんと共にパーソナリティをつとめる。その他CMソング、ジングルなど活動は多岐に渡る。
twitter @cana_ko_tera

2013年4月某日、この日を一生忘れないでしょう…4ヶ月がんばって零えぼをクリアしたこの日を！　数あるファルコム作品の中からこのゲームをやって本当によかった！　ED曲「セルリアンブルーの恋」に涙出ました！　連載にお付き合い下さった皆様、どうもありがとうございました!!　……ん？　(^ω^)





小寺可南子の大冒険大冒険ついに完……結!?

▶ファルコムニュース◀

ファルコムファンに贈る最新ニュースをピックアップ！

iOS版ドラゴンスレイヤー 導かれし宝冠の戦士たち

いつでもどこでもスマホで冒険!



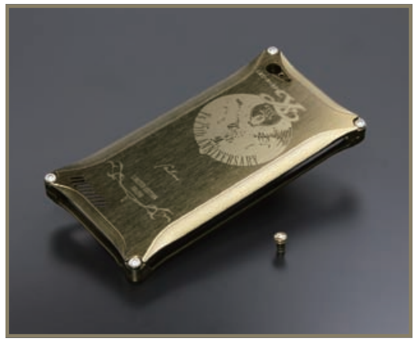
日本ファルコムの名作RPG『ドラゴンスレイヤー』シリーズをモチーフとしたまったく新しいソーシャルゲームアプリ。装備を整えてダンジョンに出発、あとは待っているだけでも経験値や宝箱が獲得できる忙しいファンにもオススメのシステムとなっている。App Storeにて発売中。詳細は公式サイトまで（http://drgslrts.channel.or.jp/）

「イース」25周年記念 iPhone5ケース

25年の歴史を高級感溢れるアイテムで!



「スマートフォンを本気で守る」をコンセプトに高強度のアルミ製ケースを製作しているギルドデザインから『イース』コラボレーションモデルが登場。シリーズを象徴する「女神」が専用マーカーで刻まれており、さらに今回はロゴをデザインした特製イヤホンジャックも付属している。受注締め切りは5月10日。6月21日発売。13800円（税込）。



英雄伝説 零の軌跡 Windows8対応版

新たな特務支援課、出動!

ファンの熱望に応え、「軌跡」シリーズの中でも特に人気の高い『英雄伝説 零の軌跡』のWindows8対応版の発売がついに決定。独自の仕様としてキーボードやマウスの操作、ゲームパッドの操作などにも対応しているのでお好みのプレイ環境でゲームを楽しむことが可能に。進化した美麗なビジュアルと重厚なストーリーを堪能しよう。6月14日発売。3990円（税込）。





那由多の軌跡 ノベライズ版

少年は妖精と共に異世界へと旅立つ

「軌跡」シリーズ発のストーリーARPGとして発売された『那由多の軌跡』が初のノベライズ化！「残され島」の少年・ナユタは、ある日出会った妖精のような小さな少女・ノイに導かれて異世界を救う旅に出るが……。特設サイト（http://sai-zen-sen.jp/sa/falcom-novelize/nayuta/）ではWEB限定の外伝も公開中。2013年夏発売予定。





2011年10月から好評配信中のWEBラジオ『ティオのファルコムラジオめんどくさいです…でもがんばります』の舞台裏をこっそりお届け♪

ティオのファルコムラジオめんどくさいです…でもがんばります
■配信日　毎週金曜日、公式HP、ランティスラジオ、ニコニコ動画にて更新。
■メインパーソナリティ　水橋かおり（『碧の軌跡』ティオ・プラトー役）　小寺可南子（『ファルコムjdkバンド』ボーカル）
■公式ホームページ　http://www.falcom-radio.com/

第76回-第77回　高戸靖広（『零の軌跡』ミシェル役）

76、77回のゲストは、ドラマCDには出演していたものの、『零えぼ』ではれてゲーム本編でも声がついたミシェル役の高戸靖広さん。まるでミシェルがゲームからそのまま出てきたかのような高戸さんのテンションに、スタジオは終始爆笑に包まれた。「出発！特務しれん課」のコーナーでは、ガチくんとしおりんが魔獣をテーマにお絵かき対決をすることに。安定した画力で可愛く魔獣を描いたしおりんとは裏腹に、ガチくんはいつも通りの画伯ぶりを発揮した。

▶第76回-第77回の舞台裏◀

76回で早くも3回目を迎えた、もっともガンヴァルドしたリスナー（MVL）の発表。この当選者の発表は、その時に初めてチョイスされた投稿を、ガチの多数決。そして、当選者に贈られるサイン色紙も、描き貯めはせず、毎回収録後に描かれているのだ。

第78回-第80回　石塚運昇（『零の軌跡』セルゲイ・ロウ役）

放送開始から1年半を迎え、番組内容も一カ月にふたりのゲストをそれぞれ２週ずつ招く形から、一か月にひとりのゲストを３週招き、残りの１週は「jdkTV」とのコラボ企画などを行う形へと変更された記念すべき78回。そのゲストは、約1年ぶりの出演となるセルゲイ役の石塚運昇さん。登場シーンではしおりんの作った食べ物を食べて悶絶したりと、意外にも（？）ノリノリで演じていた石塚さんの姿が印象に残った。

▶第78回-第80回の舞台裏◀

「特務しれん課」では、久しぶりのお料理コーナーが開かれ、ガチくんとしおりんが「甘茶」作りに挑戦した。実は、料理コーナーの品物は、番組のディレクターでさえ当日に出来映えを知ることができるという、まさにガチンコ勝負の恐ろしいコーナーになっているのだ。







今月のコテガキ

毎週更新とともに発表される、小寺さん直筆の「コテガキ」を少しだけご紹介！

Falcom FanArt Collection

数々の名作で多くのファンを生み出してきた日本ファルコム。
FFCでは、そんなファルコムを愛するイラストレーターの方々のイラストとコメントを毎月お届けします！



中島 鯛

ZWEIやぐるみん系の可愛いのに極悪アクションなゲームが大好きです。特にZWEI2はキャラも立ってて素晴らしいと思うのですが、割と知名度が低い気がして寂しいので描いてみました。早くVITA辺りに移植して下さ〜い！

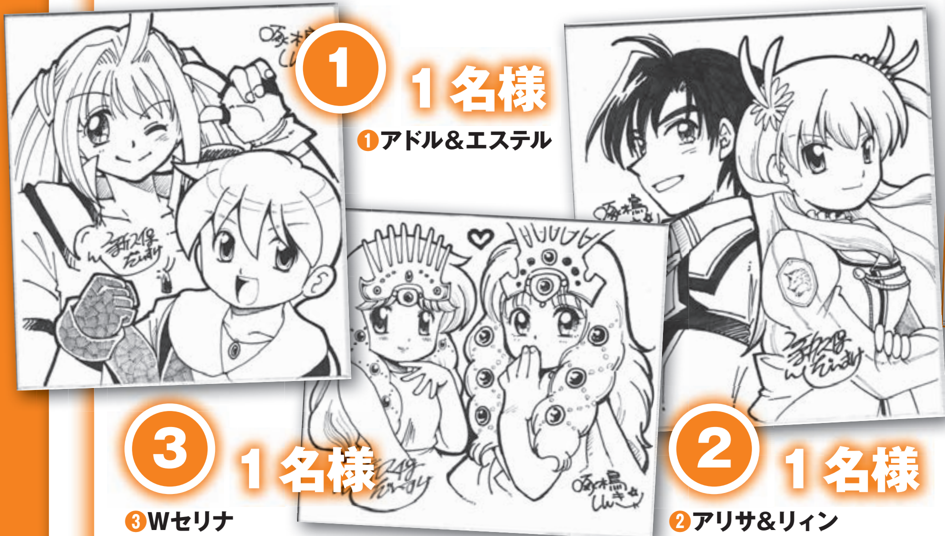
『ZWEI Ⅱ』（2010）

若きトレジャーハンターのラグナと、瀕死の彼を救った吸血鬼の姫・アルウェンの冒険を描くARPG。戦闘やアイテム回収をしてくれるペットや食べ物でのレベルアップなど独特の世界観が魅力的だ。

FALCOM MAGAZINE SPECIAL プレゼント!!

アンケートにお答えいただいた方から抽選で
ここでしか手に入らないアイテムをプレゼント！

新久保だいすけ先生＆啄木鳥しんき先生 対談記念特大プレゼント!



① 1名様
❶アドル＆エステル

② 1名様
❷アリサ&リィン

③ 1名様
❸Wセリナ

熱いファルコムファン同士の夢の対談を記念して、新久保先生＆啄木鳥先生のお二方の情熱溢れるサイン色紙をプレゼント！　コラボレーションを果たしたキュートなイラストにも注目だ！



④ 3名様
❹閃の軌跡マガジン vol.3

『英雄伝説 閃の軌跡』最新情報を毎月お届けするフリーペーパー。今月号からは『閃の軌跡』を紹介する新久保先生の描き下ろし四コマもスタート!

プレゼントの応募方法

こちらのアンケートの回答を下記のアドレスまでメールにてお送りください。
プレゼントの当選者には編集部よりメールにてお知らせ致します。

- ●下記のメールアドレスをご記入ください。
- ●「vol.27プレゼント係」とご記入ください。
- ●お名前（ペンネーム可）をご記入ください。
- ●右記の記事一覧から、今月号で一番面白かった・つまらなかった記事をご記入ください。
- ●ご意見・ご感想などをご自由にご記入ください。
- ●希望するプレゼントの番号をご記入ください。

宛先：
件名：vol.27プレゼント係
○○○○○○○○○○
◆
面白い：
つまらない：
◆
○○○○○○○○○○
◆
1

【記事一覧】

1：英雄伝説 閃の軌跡 潜入レポート
2：『少年期における家出的解決〜優しい思い出〜』
3：『みんな集まれ！ファルコム学園』
4：英雄伝説 空の軌跡 リベール王国スナップショット
5：jdkバンドドラマー・オカジの人生半キャラずらし
6：ティオのファルコムラジオ めんどくさいです…でもがんばりますの舞台裏
7：jdkバンドボーカル・コテカナのコテ放題♥
8：FalcomFanArtCollection
9：ファルコムニュース

宛先はこちら➡ falmaga@field-y.co.jp　応募締め切り 5月25日

メールにてお送りいただくお名前やご住所等の情報は、賞品の発送のためのみに利用し、その他の目的には利用致しません。
また、情報は応募締め切り後3ヶ月を越えて保有することはありません。



月刊FALCOM MAGAZINE Vol.27

発行人	田中一寿
発行協力	日本ファルコム株式会社
編集	小渕智幸 大場恵美子
ライティング	宮崎洋平
デザイン・DTP	さとうだいち
表紙ロゴデザイン	荻窪裕司（ビーニーズ）
発行	株式会社フィールドワイ 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-1-9　日光ビル3F TEL 03-5282-2211（代表） http://www.field-y.co.jp/
制作・販売協力	シナノ印刷株式会社